北支

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十六年七月十五日印刷納本
昭和十六年八月一日發行（毎月一回一日發行）第二十[illegible]號



現地編輯

THE NORTH CHINA

8

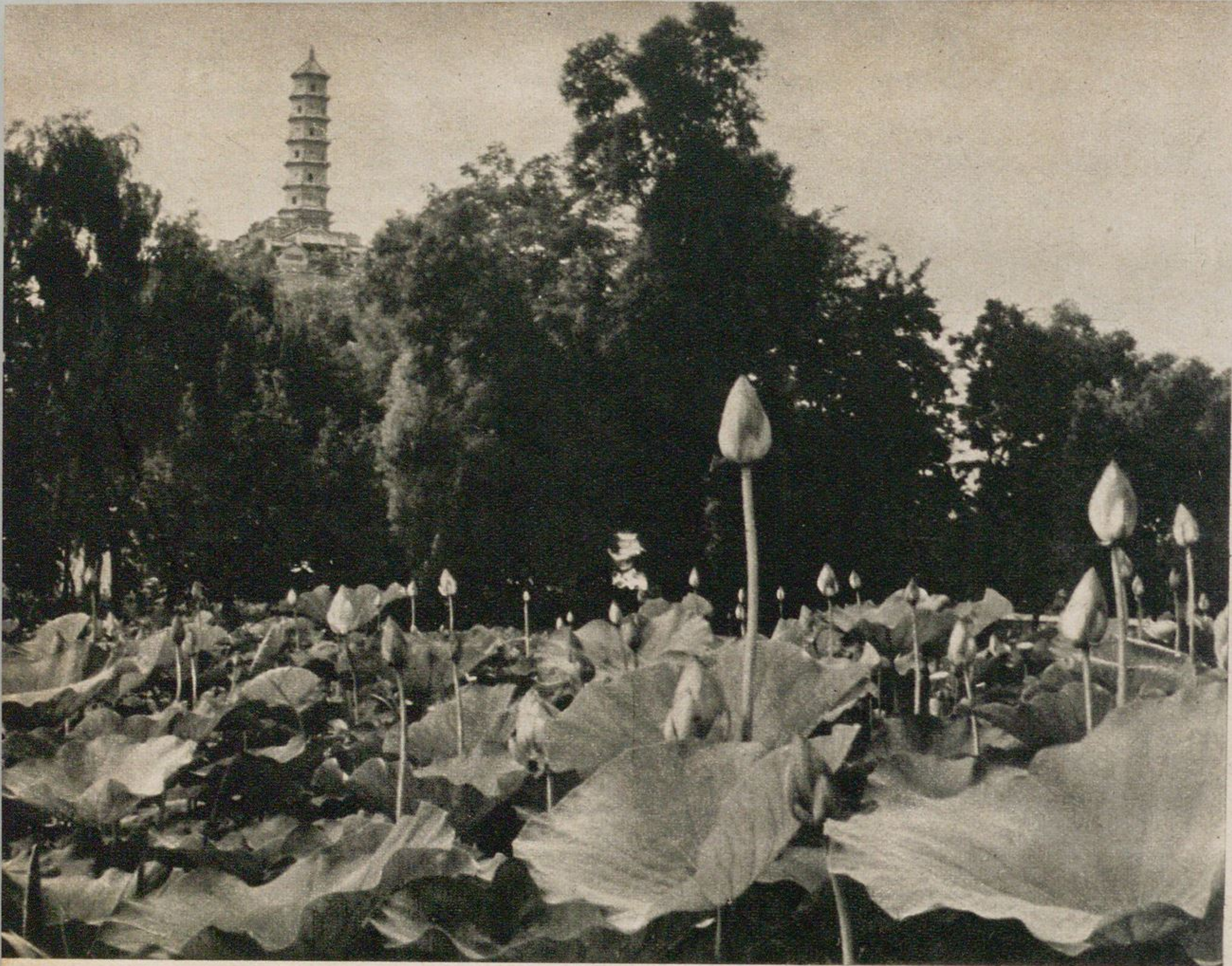
北支の花



睡蓮（すゐれん、ひつじぐさ）
子午蓮、茈碧花などとも呼ばれ未の刻（午後二時）を中心として花を開くので、ひつじぐさの名がある。白い花が普通であるが、赤、桃、黄、淡紅色などのものもあり可憐な姿を水に浮べる



布袋草（ほていさう）
葉柄の中央部が著しく膨んで布袋の腹に似て居るのでその名があるが、中國では葫蘆（へうたん）の形をして居ると言ふので水葫蘆花と謂はれる。金魚屋が持ち歩いて賣つてゐる浮草がこれである。淡紫の花が咲く





水の北京には蓮の名所が多い。殊に北海の蓮は丈が高いので有名である

蓮の花は君子の清節にたとへられ、また美人の容姿にうたはれ、觀賞用として、牡丹に並ぶものであるが、さらに食料その他の實用的價値もまた極めて大きいのである。根はさまざまの料理に使はれ、或は砂糖漬にもされる葉は蔭干にして包裝用とされ、莖は藥用となる。蓮の實は支那料理に珍重され、またその砂糖漬は北京みやげの一つである

山東省は蓮の產地として將來益〻期待されてゐる

山に挑む

Battling Against Elements of Nature — MOUNTAINS



大行山脈の一部

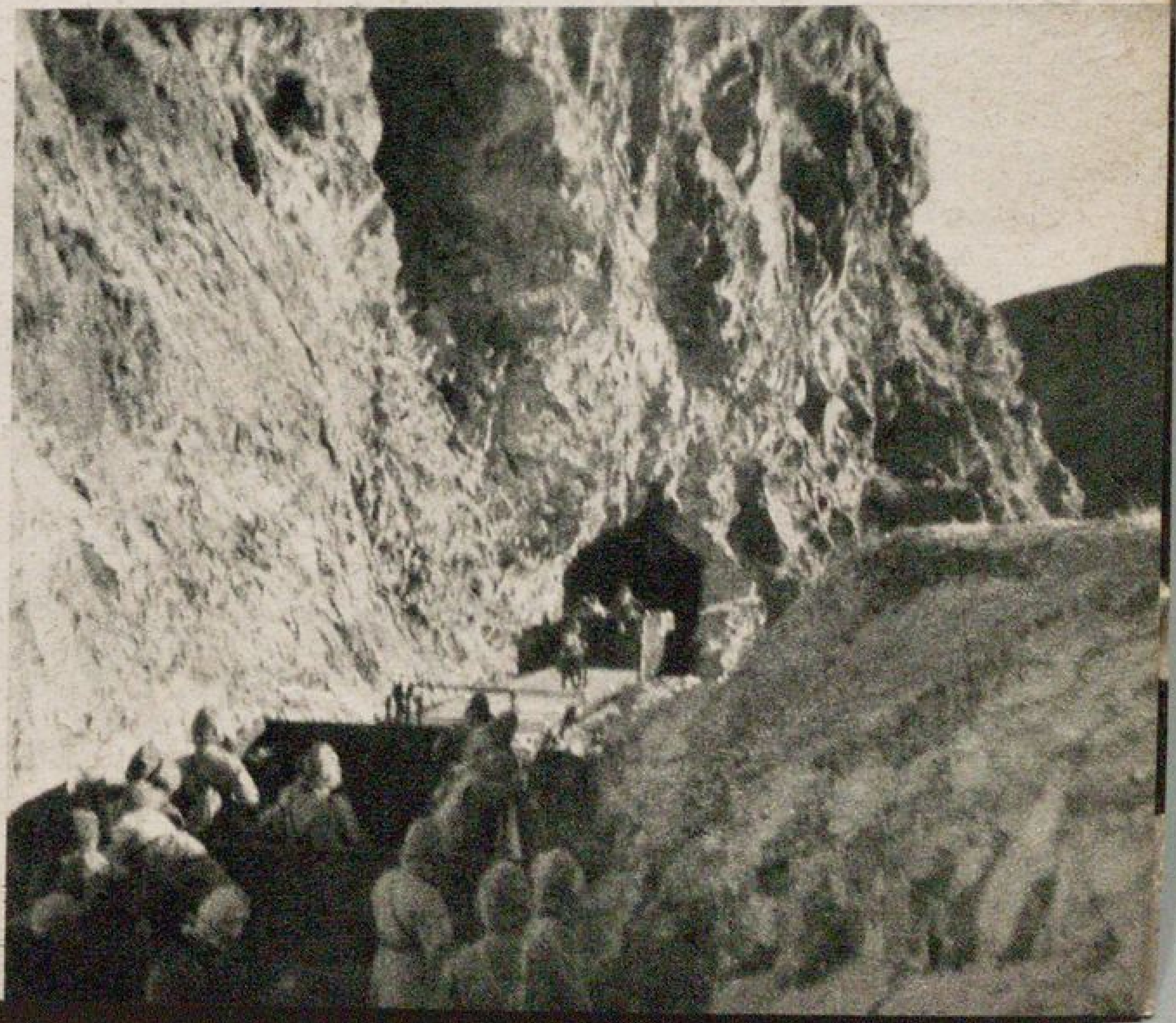
山西省の大部分は黄土高地によつて占められてゐる。支那の文明はこの黄土高地に發祥した。汾河流域は堯舜の地であり、渭水の谷は支那文明の揺籃地とされてゐる。漢人種は、これら黄土の高地から苗族その他の文化を吸収して黄河に沿つて中原に出たものであらう。然しその後、この山西は産業、經濟にほとんど顧みられなかつたと云へる。中原と隔絶するために居庸關、紫荊關、娘子關等の關門が設けられ、ただ蠻夷の住む地とされた

ところが近世この山西の高地には、莫大な鐵と石炭のあることが發見され、各國の注目するところとなつた。石炭だけでも一千四百億トン、日本の埋藏量の二十倍と云はれる。この山西の地下に眠る資源こそ、戰時下日本の求めてやまぬものである

事變後、この開發の爲に華北交通會社によつて鐵道建設が進められ、荒々しい岩膚にハンマーの響がこだました。石太線、同蒲線南段の復舊、寧武——大同間、山西省南部開發の東潞線など短時日の間に完成した。しかしこの完成は決してなまやさしいものではなかつた。峨々たる山脈、まして共産軍の絶えまない鐵道妨碍のさ中に工事は進められた。加ふるに特殊な黄土の地質のために岩盤が脆くなり、線路上に崩れ落ちることなど屢〻であつた。黄砂を含んだ凄しい颪の吹きまくる山奥の寒驛で從容として殉職した建設戰士の妻もあつた

鐵道建設への戰ひは今後益〻奥地へ奥地へと續けられて行くのだ

西部大行山脈を縦に貫く北同蒲線の建設作業





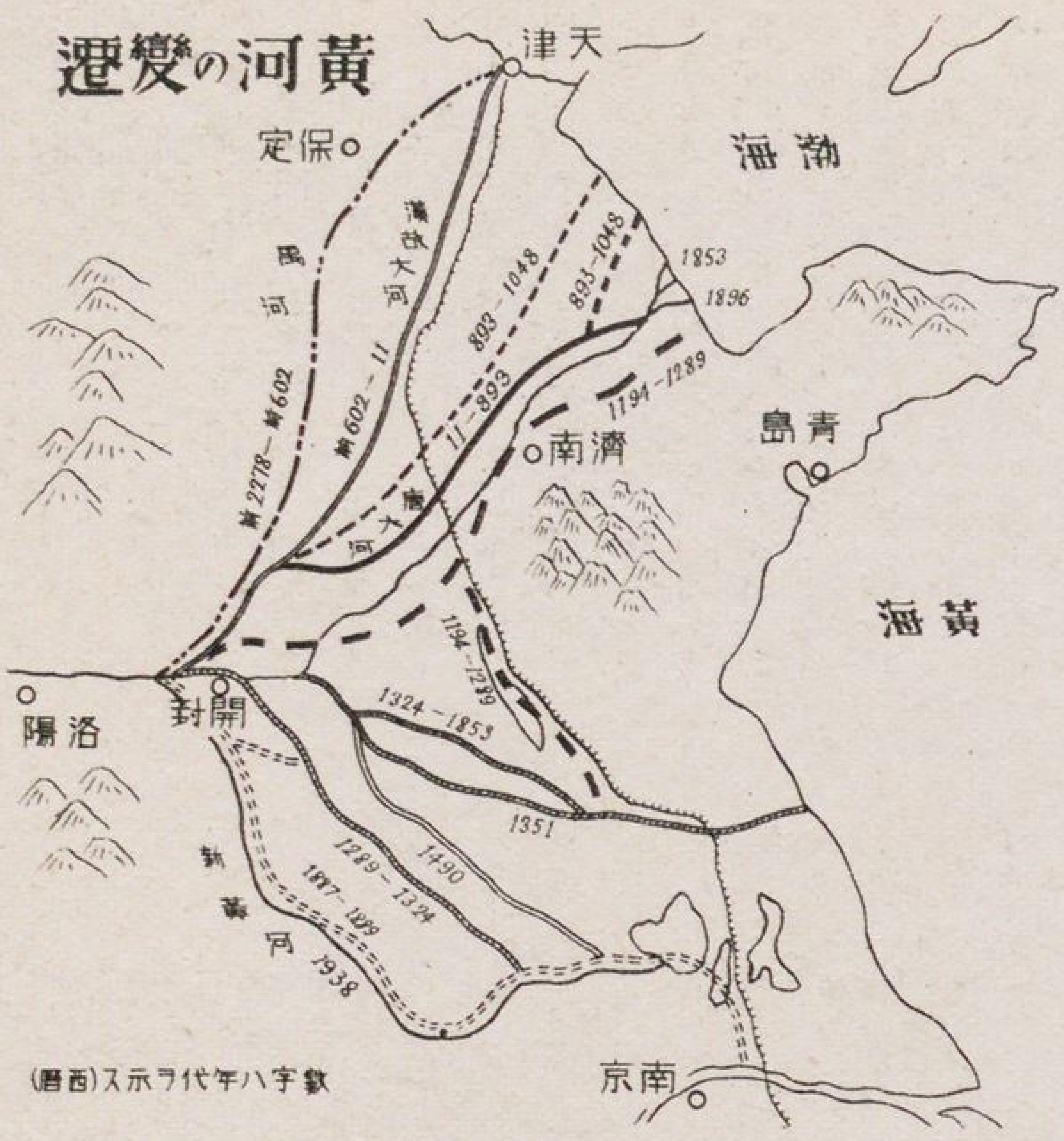
水に挑む

中國における洪水との闘爭の歴史は古い。中國四千年の歴史は、その最初から黃河の氾濫と北狄の侵入との闘爭史でもあつた。同じ氾濫と云つてもエジプトのそれは收穫と富とを約束する天與の惠であるが、中國の洪水は單に破壞的な一面のみであつた。大地をのみ人家をさらふ大自然のあくなき暴威の前に、根强い漢民族の不屈の闘魂もはかなく弱いものであつた。押しよせる濁流の渦卷きにあはれにもかき消されてしまはなければならなかつたのだ。大水害のみでも明から淸末の五百年の間に四百回、民國初年から二十六年の間に二十四回を數へてゐる。又昭和十三年、十四年の二箇年に亘つて北支全域を襲つた水害は再建途上にあつた北支農村を窮乏のどん底に落し込んだ。罹災民八百萬と云はれ深刻な食料不足を招いた。又鐵道についてもその損害は四千萬圓、被害線路延長は一六〇キロに達し、鐵道線路一キロ當り三九米の被害を蒙つたのである。その間、涙ぐましき交通從事員の奮闘が續けられた。炎熱と戰ひ、雨を犯し、或は病さへも忍んで復舊に邁進した。或る者は試運轉列車の通過を見ないで倒れ、或る者は血をはいて後送された。巨大な自然の力とそれに反撃して行く逞しい建設戰士のすぐれたエピソードがいくつも見られたのである。水を治むる者國を治むといふ支那の悲哀は今や我等

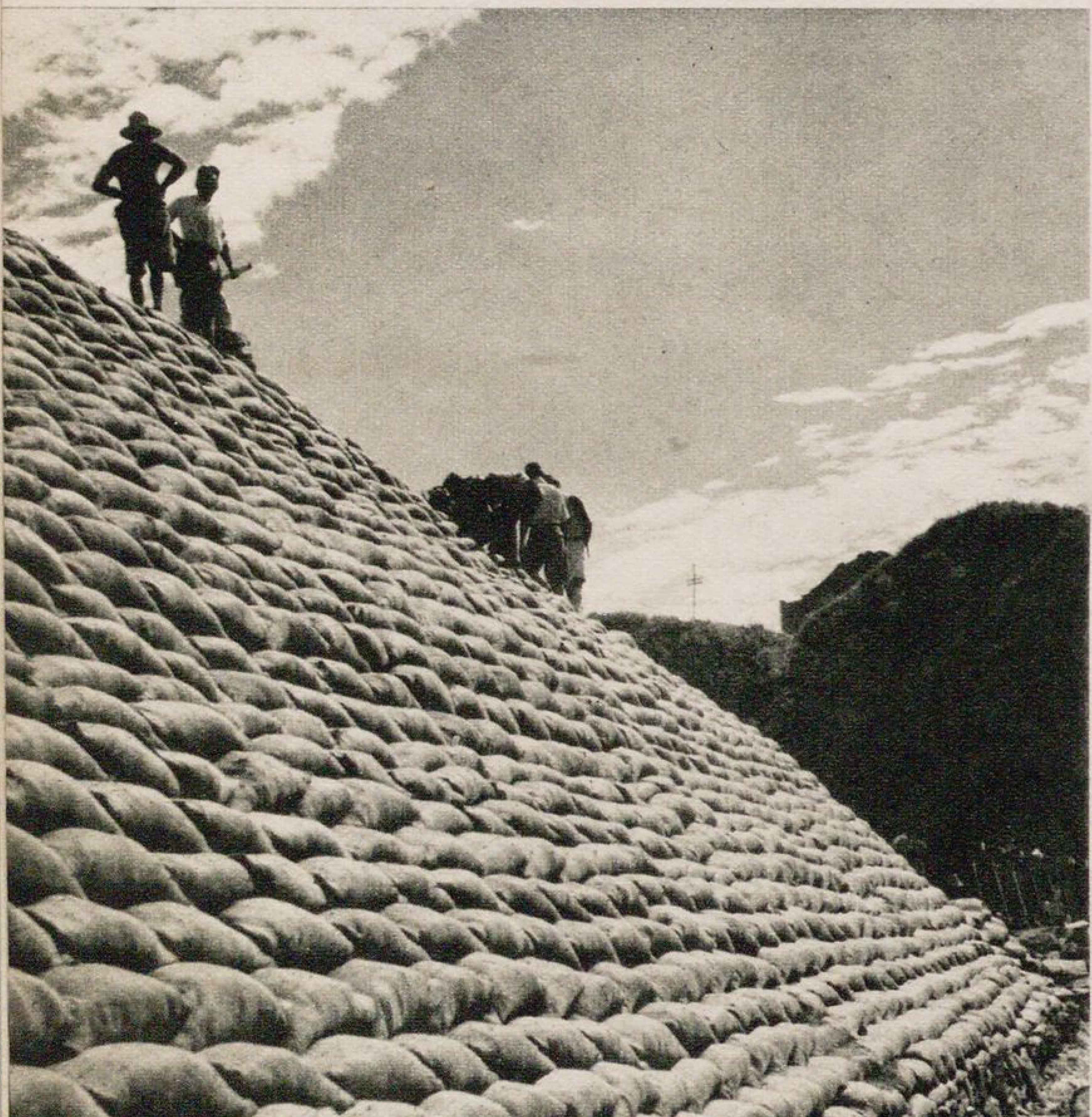


の前に展開されつつある。この水禍の悲劇をこの北支の土壌の上から永遠にもぎとらねばならない
現地關係當局によつてその治水對策が種々講ぜられつつあるが、華北交通會社では將來の水害を考慮してその對策に大いに力を注いでゐる。又今次の水災によつて食料さへ自給し得ない農村の更生のために愛路村を組織し、その復興運動を行ひつつある

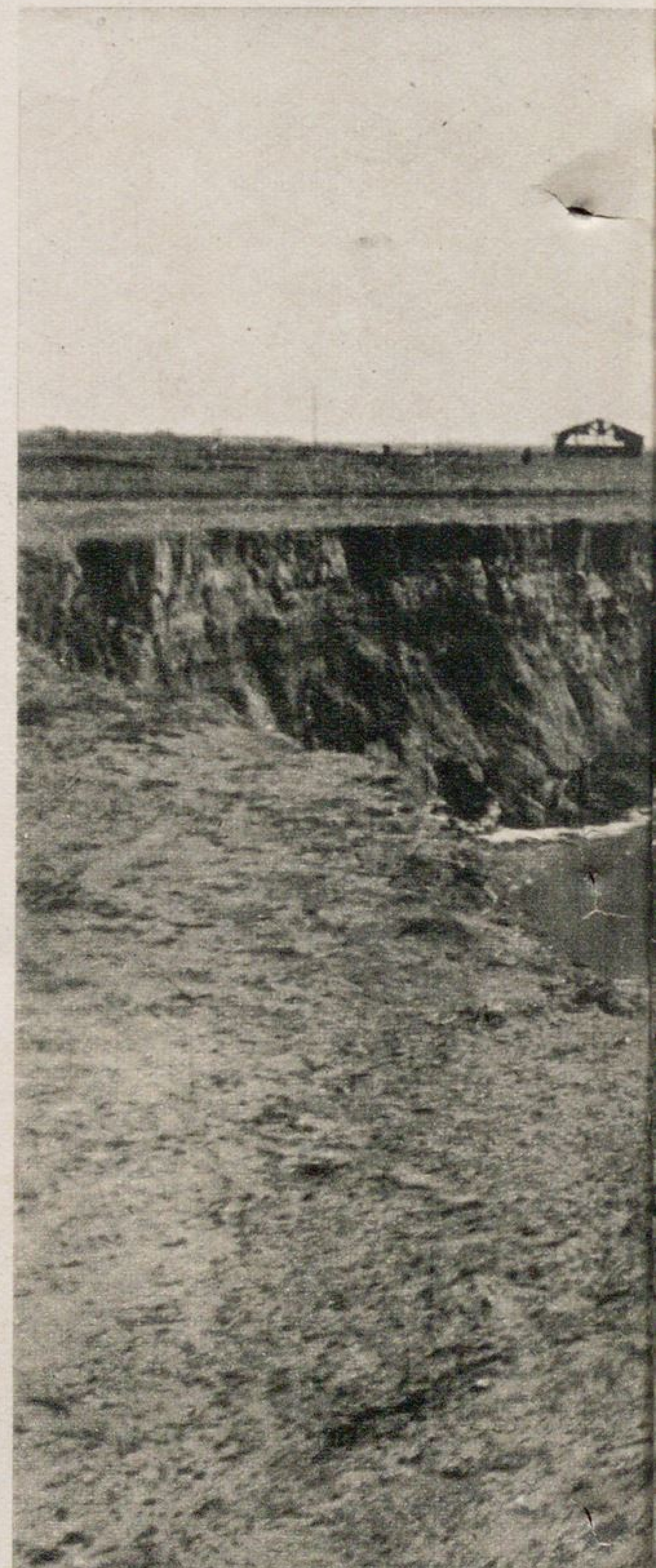
黄河の變遷



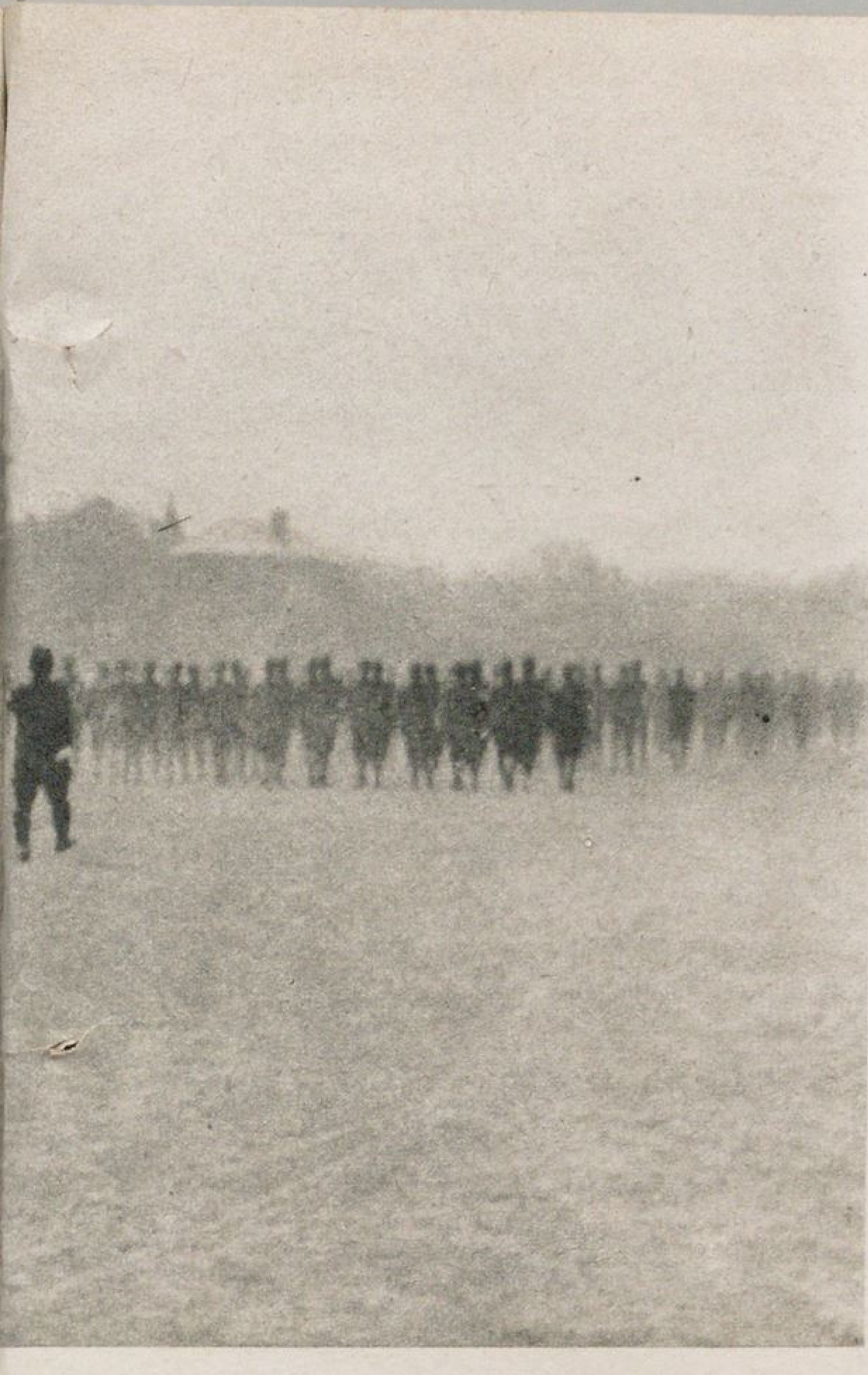
中國の歴史は一面治水の歴史である。それは人間と自然との闘爭史である。世紀は巡つて、今や此の巨大なる自然を征服すべき使命が我等の肩にかかつて來た



黄河の上流



Battling Against Elements of Nature — WATER





大陸交通を擔ふ人々

華北交通 青年隊行進歌

一

戈壁(ゴビ)の沙漠に風荒れて
黄塵空を蔽ふとも
大地を踏んでゆるぎなく
隊伍堂々進むべし
我等鐵道青年の
見よ堅剛の意氣と熱

二

黄河の水のゆくところ
興亡古來常なきも
歷史を玆に更めて
世紀の樂土うちたてむ
我等鐵道青年の
識れ高遠の大理想

三

ヒマラヤの嶺高からず
タリムの盆地遠からず
若き先驅の力もて
やがて征くべしカスピ海
我等鐵道青年の
聽け遠大の建設譜

四

今し亞細亞の朝ぼらけ
旭日燦とかゞやけば
若き生命の火と燃えて
五色に映ゆる舊山河
我等鐵道青年の
おゝ榮光の大使命

Railway Heroes on the Front Line



華北交通青年隊の分列行進

華北交通乗馬隊





紫禁城の槐（北京）

盛夏



北海（北京）



天棚と天布

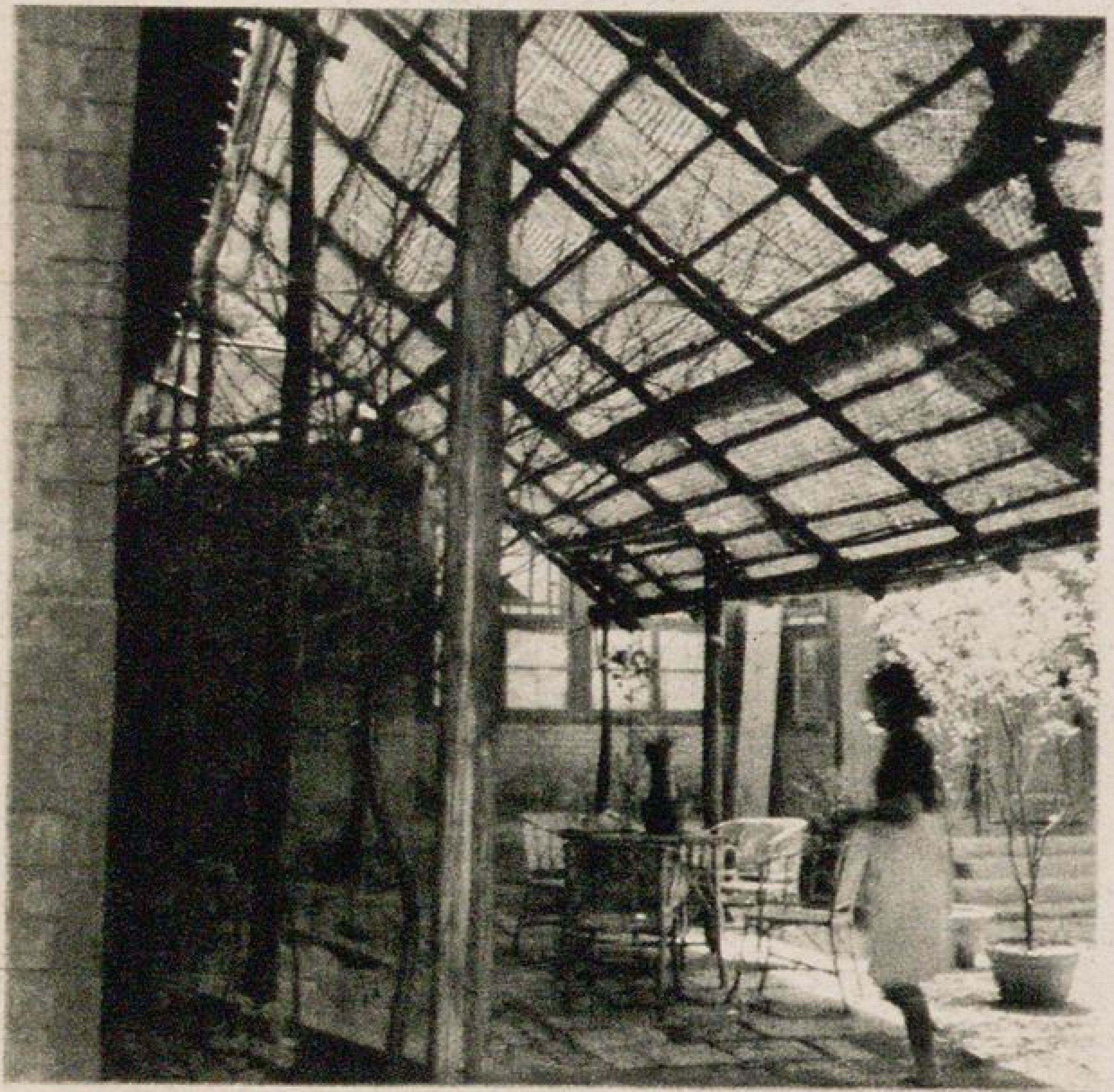
Protection Against Scorching Rays of the Sun

日本の梅雨はしとしととして女性的であるが、六月末から七月にかけて降り續く北支の雨は、豪快な土砂降りである。それが過ぎるともう降らない。

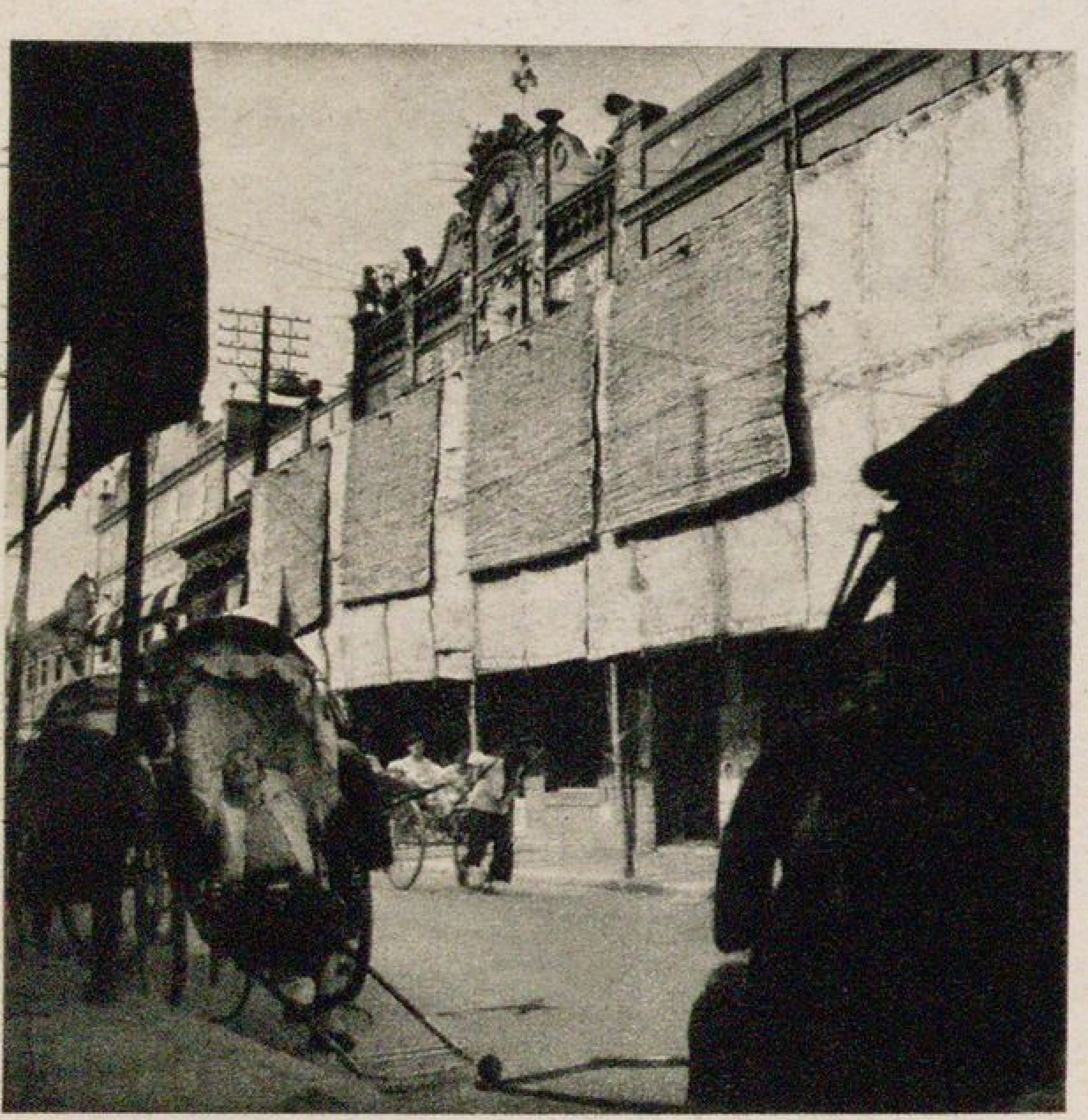
大陸の烈日はもろもろの生物を焦がし人々は天棚（テンポン）や天布（テンプ）の蔭の中にひそんで動かうともしないのである

酸梅湯（スアスメイタン）や氷激淩（アイスクリーム）をすり乍ら、天棚のさけ目から、しみ入るやうな空を眺めてゐると、今、夏である、といふことを忘れることさへある。それは蔭と日向の溫度の差の甚だしい大陸氣候の特徵のためである

日本では暑氣を避けるには窓や障子を開放して風を通すのだが、大陸ではその反對に、窓を塞いで戸外の熱氣を防ぐのである。さうして更に窓を天棚で蔽へば、申分がないのである



家庭に於ける天棚の蔭



北京商店街の天棚



北京西四牌樓あたりの露店の天布



磁州窯（彭城鎮） 1

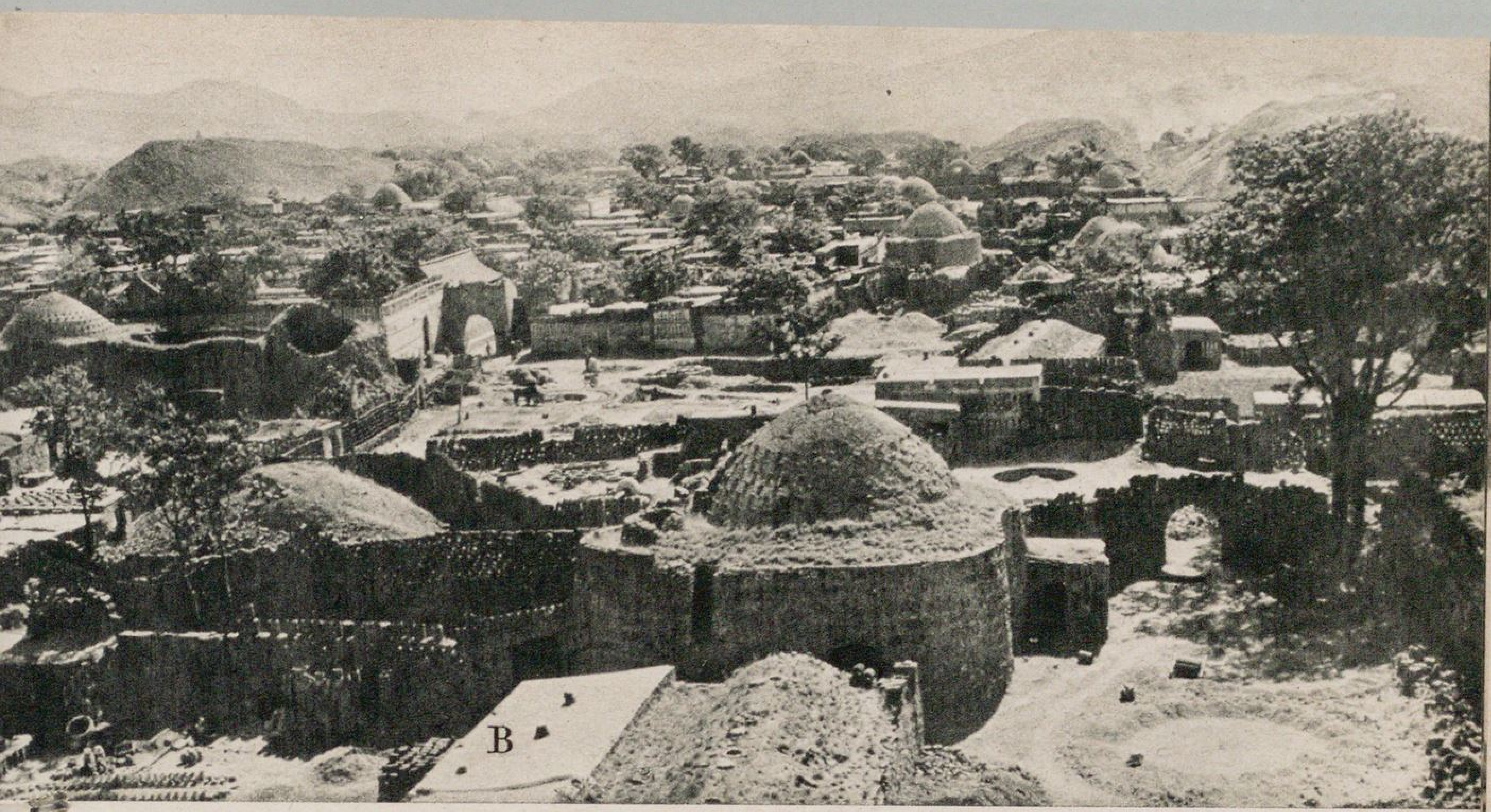
Tzu-ehou Pottery



小山富士夫

河北省磁縣の西方約六里に、北支第一の陶鄕彭城鎭があります。俗に磁州窯と呼ばれ、古來最も有名な窯の一つです。磁州窯の起源に就いては、一説に唐と謂はれ、又北宋とも謂はれてゐますが、少くとも北宋時代からあつたことは明らかで、その古窯址は最近彭城鎭の東約一那里、臨水と東紙坊との中間に發見されました。現在の窯は彭城鎭を中心として、これに北接する福田村、曹謝庄、又、北約二里の義井、上拔劍、下拔劍等にあり、その總數二百餘座、その年產額は百萬元を超すと傳へられてゐます

Aは廣い中庭一面に何百千の茶碗を列べ、これに釉がけをしてゐるところです。地面にぢかに置くところは如何にも大陸的で、その仕事の早いのに全く驚嘆します。右手に見えるのは工房で、轆轤や土ごしらへはすべてこの中でします



B

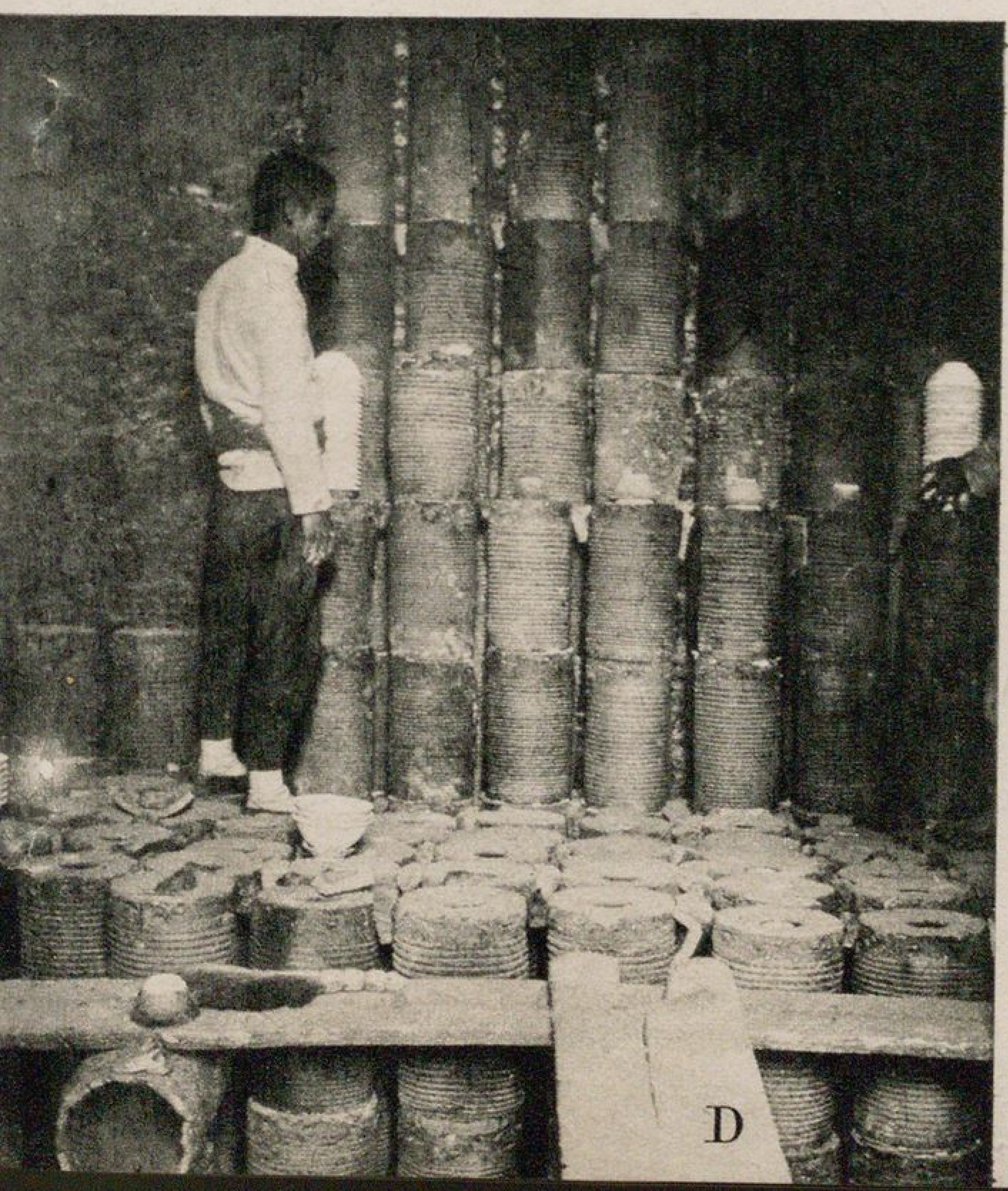
磁州窯 2

Bは彭城鎭の全景で、幾十百の窯が林立してゐるのが見えます。街も塀も仕事場も窯もすべて使ひ古した匣鉢で出來ており、道路は何れも七窯を縫ふやうにして通じてゐるのは一奇觀です遠く街中に見える低い丘は物原で、石炭ガラや燒損じの破片で築かれたものです

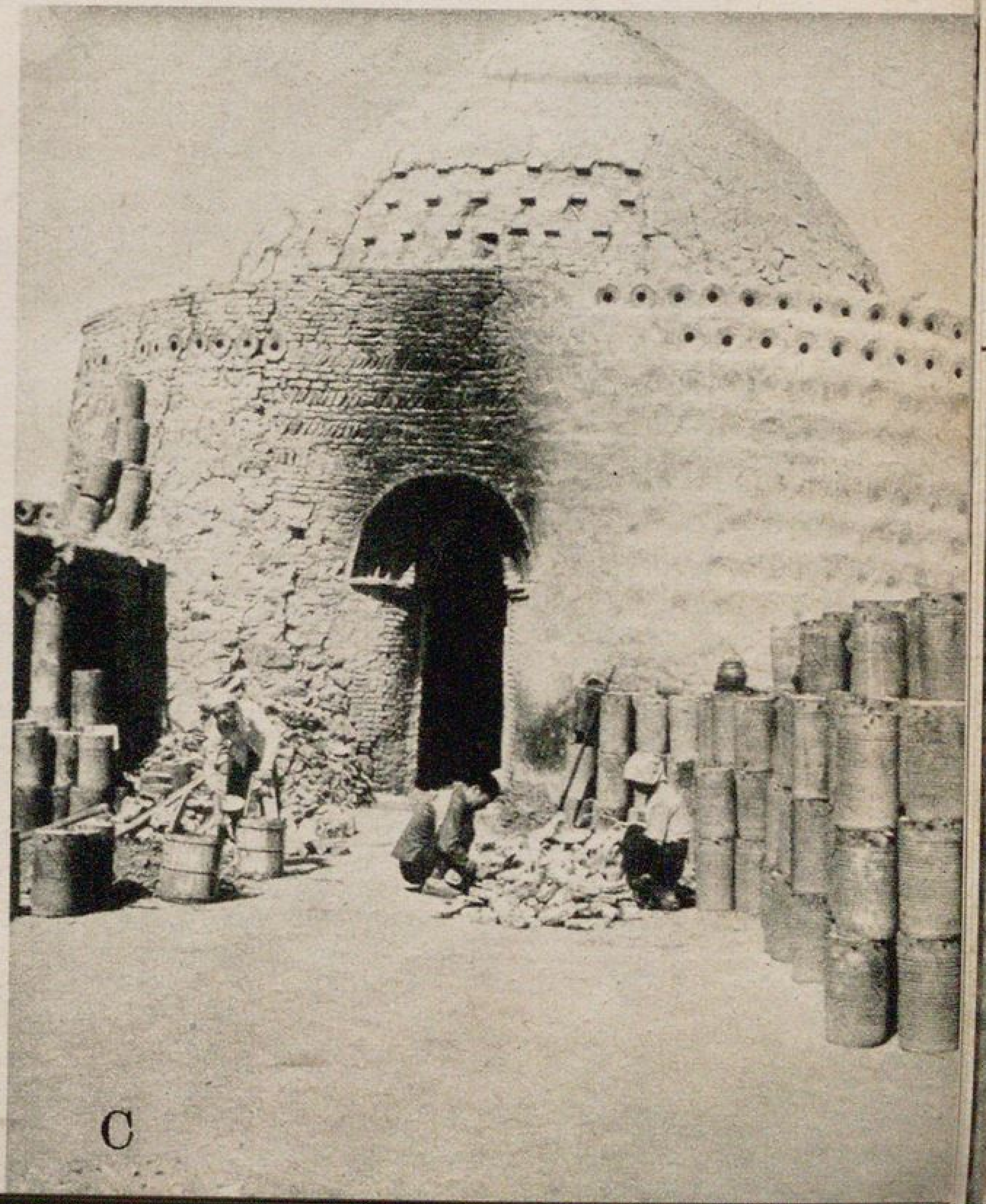
Cは窯で、北支獨特の燕形をし、窯內は方形で高さは二三十尺あります

Dは窯詰めの狀景で、茶碗を二十ほど重ねた上に匣鉢を被せ、これを天井近くまで積み重ねます。一窯に茶碗五六萬箇、小さい萬も一萬箇は入ります燒成にはすべて石炭を用ひ、通常三四晝夜かゝります

磁州窯の製品は、縣志にも「質厚而麤只可供肆店莊農之用」とあるやうに、日用の雜器が多く、その作風は、鹿笨奔放で、鐵繪をかきなぐつた所謂繪高麗風のものをその主潮とします。然し宋代、特に北宋のものには鋭俊緊密な頗る藝術的香氣高いものです。



D



C



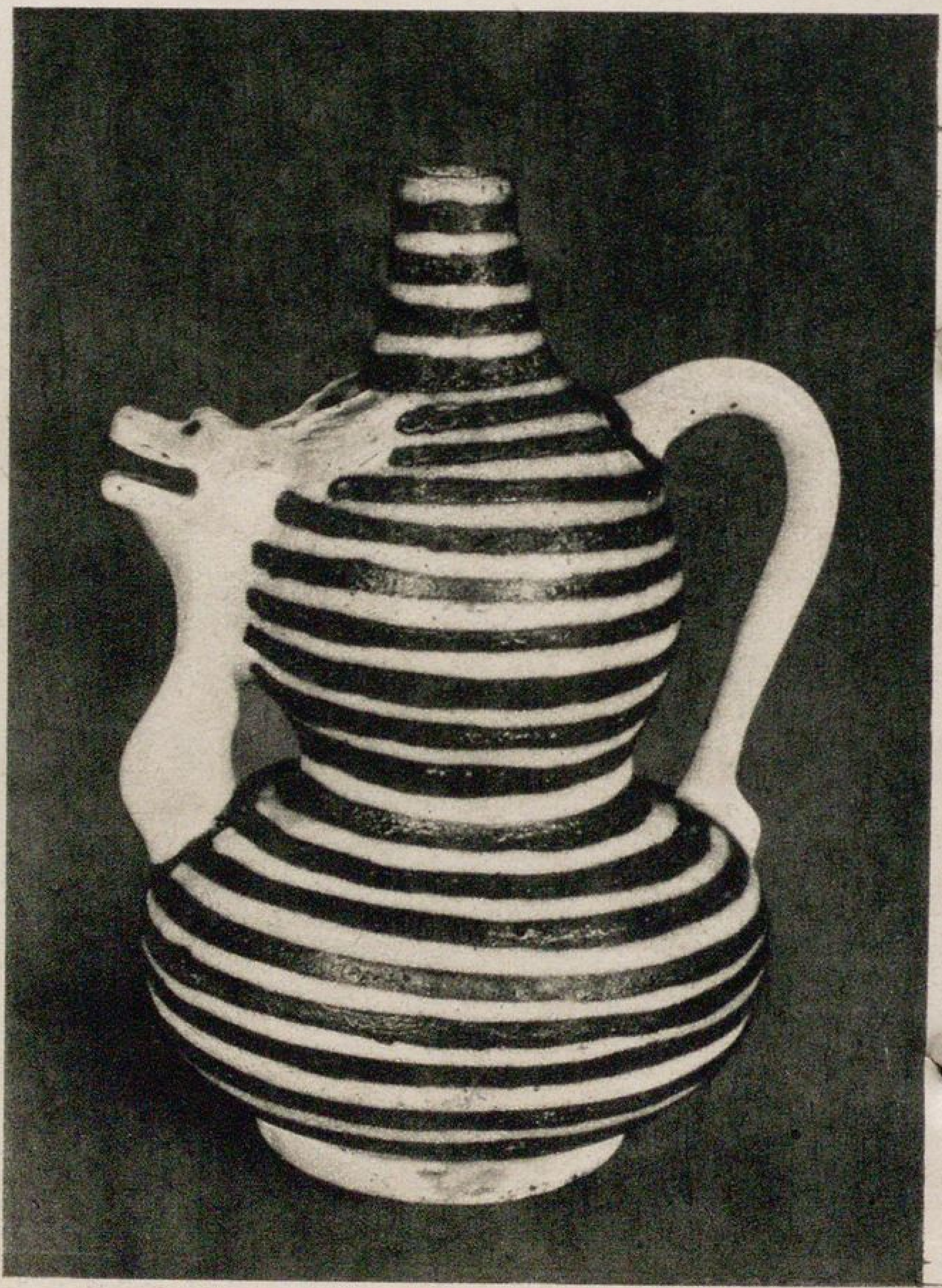
鐵繪草花文瓶（井上恒一氏藏）



黒劃牡丹文瓶（西村總左衛門氏藏）



點線文小壺（帝室博物館藏）



線侍文水注（細川侯爵家藏）

放牧



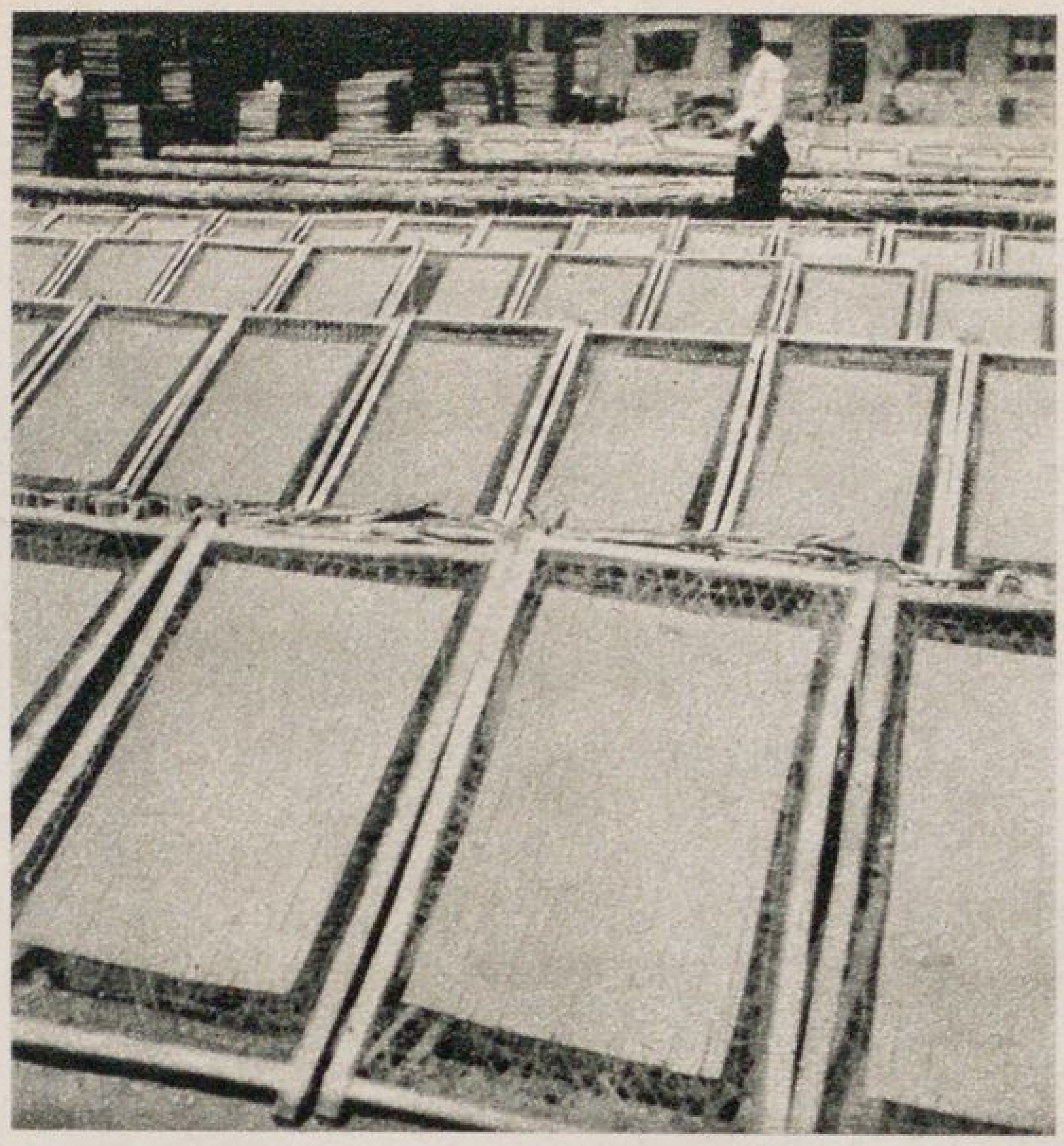
内蒙古シャーペーズ風景

Pasture-Land

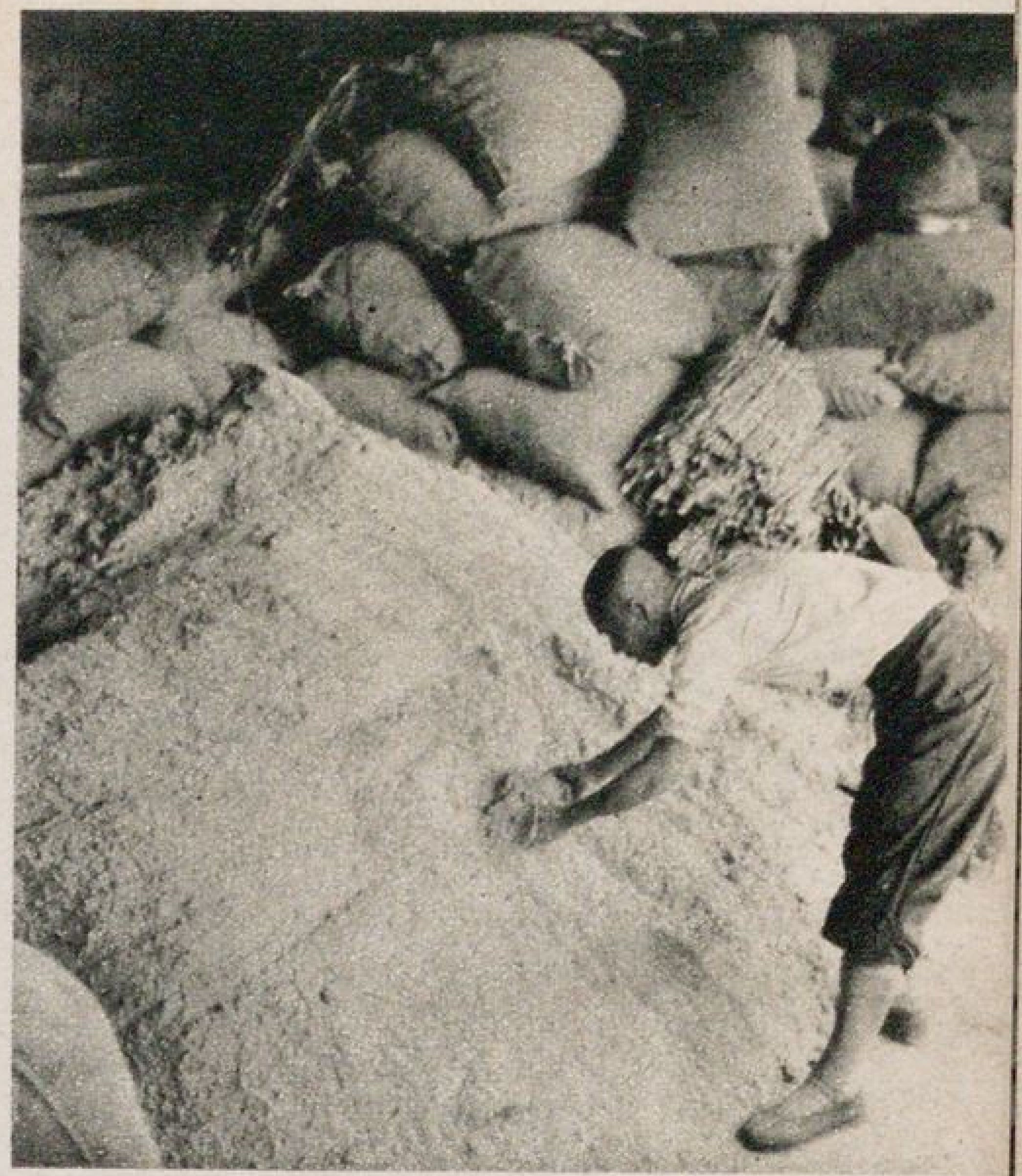


線香を

Incense‥‥
and Sticks



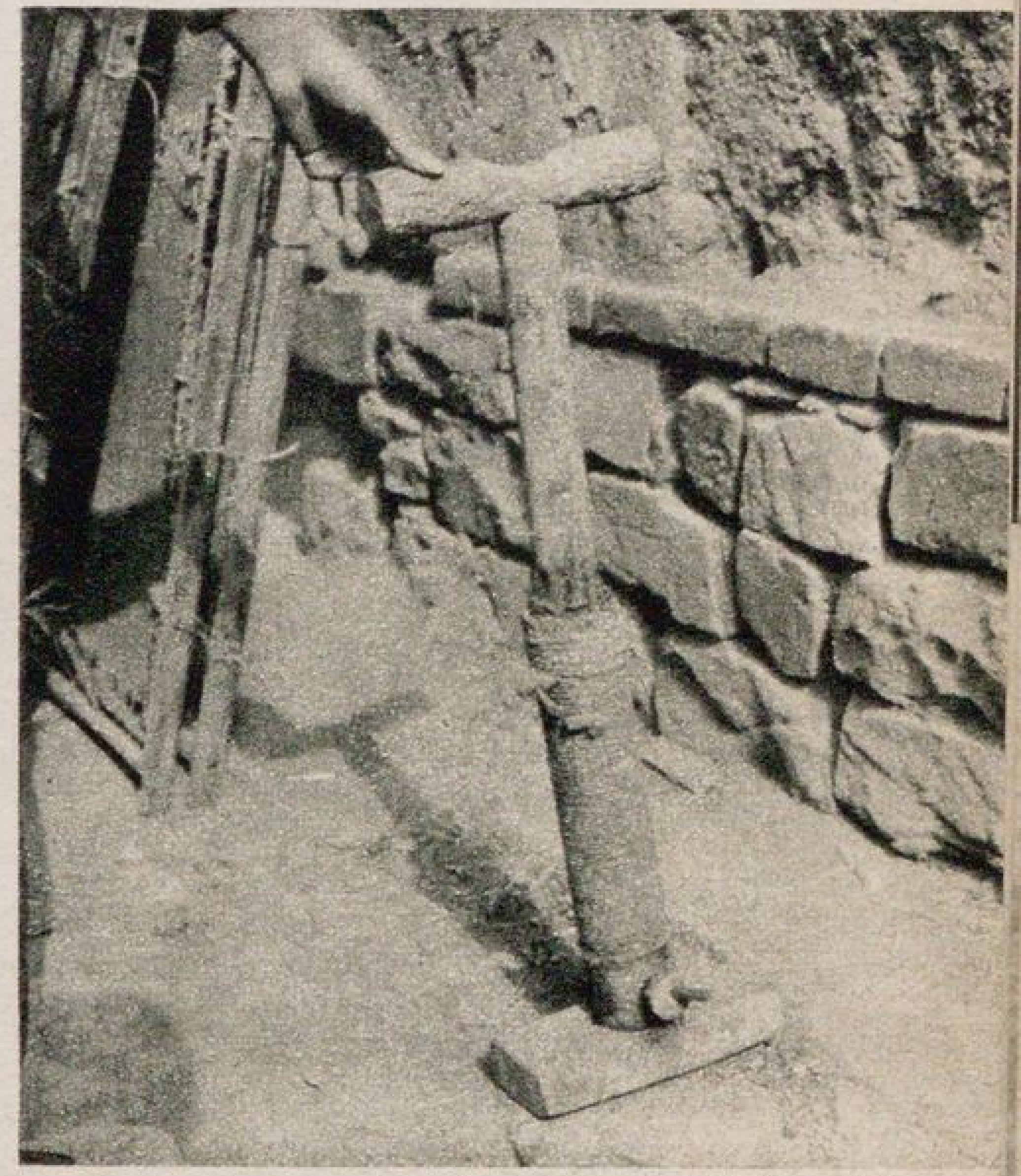
乾　燥



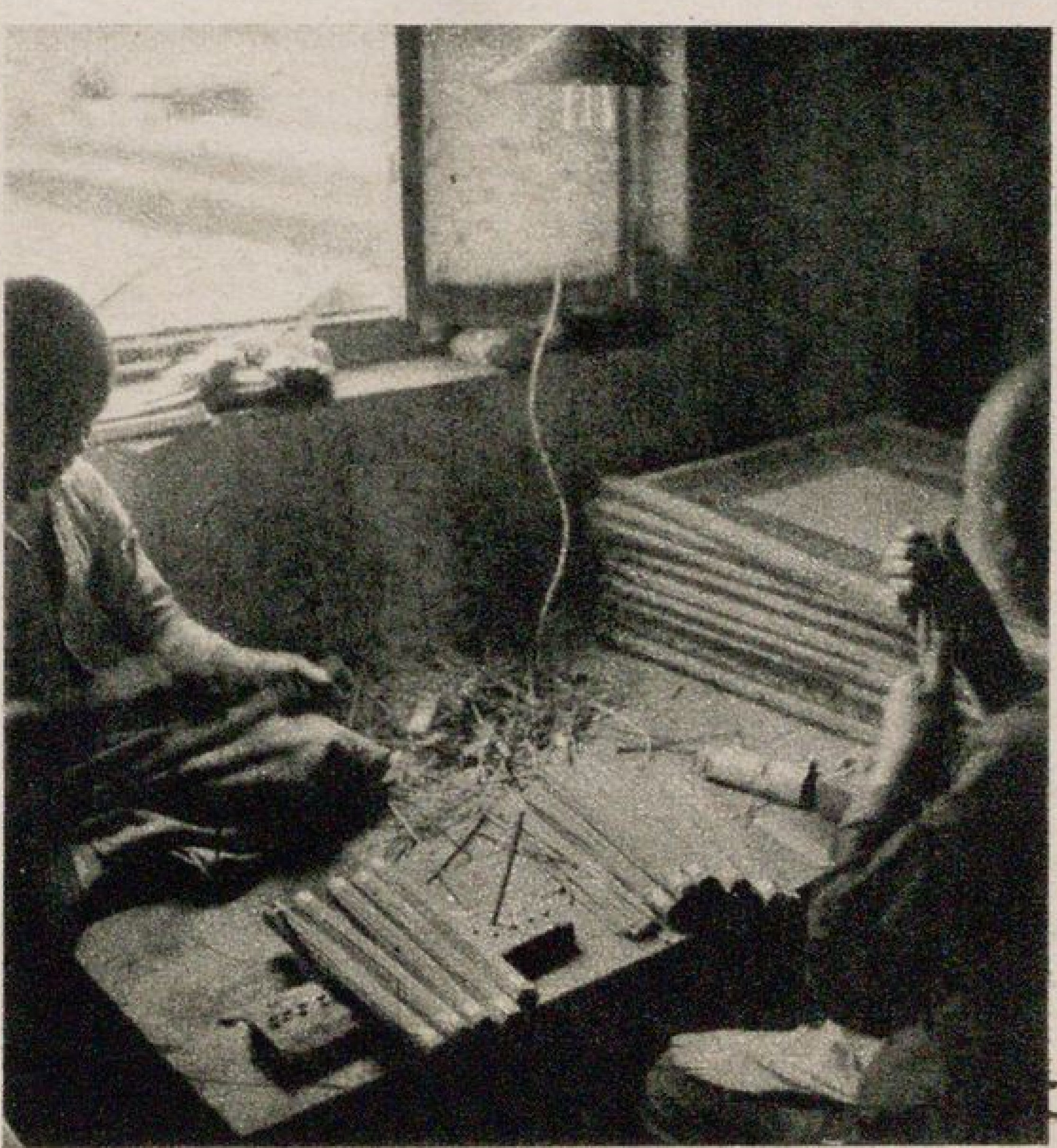
原料の倉庫



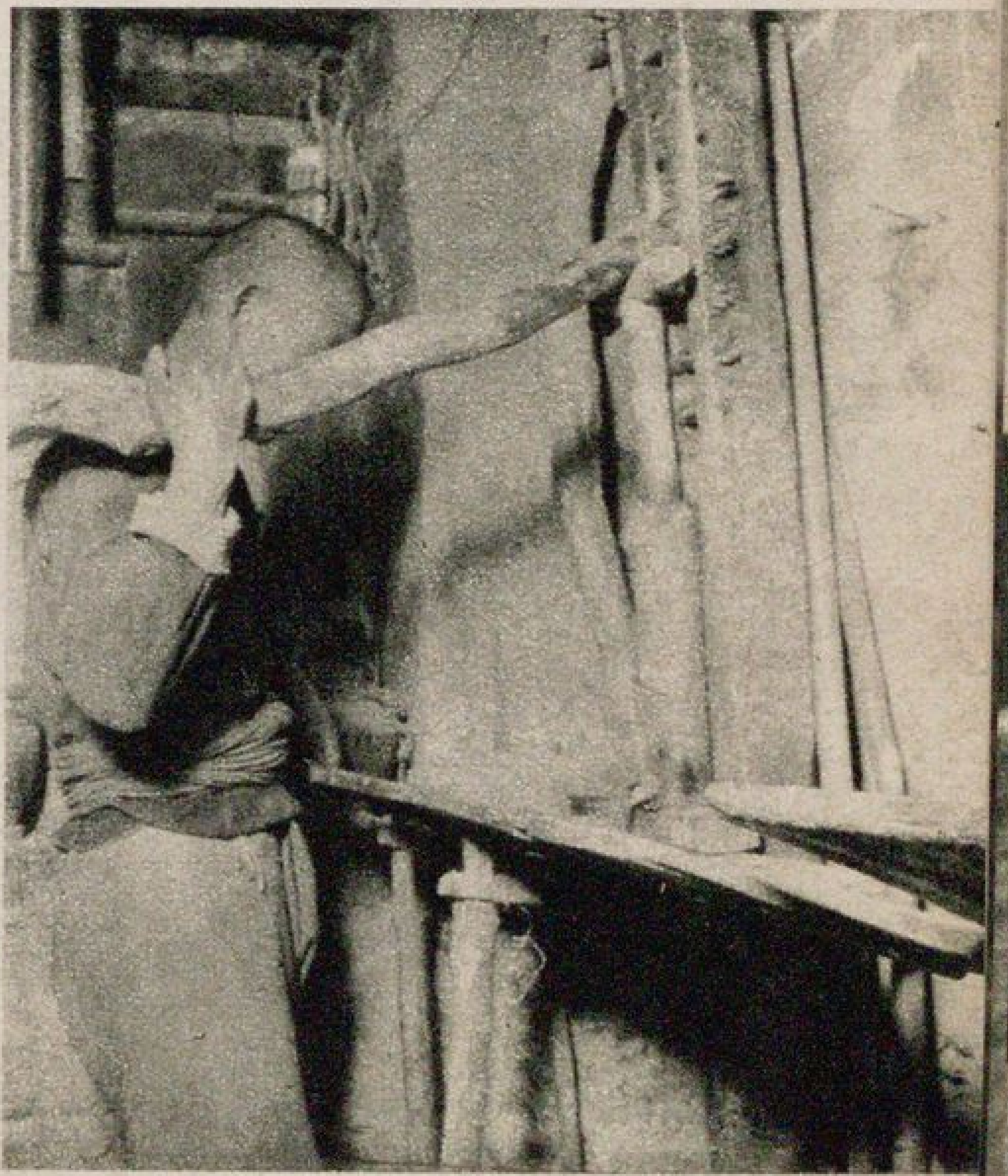
乾いた線香の歪みを直すために壓しをかける



原料を粘状にして此の中に入れる



包　裝



押し出すと細い線香が出て來る

中國人の生活に香はつきものである。朝な夕なの禮拜に、年末、年始その他四季とりどりの廟會に香の使用されないことはない。そのため香の製造業者は各地に散在してゐる。都市には製香工廠があり、農村には手工業として發

材料は、多く松、柏、楡、楸、槐などの木屑と樹皮に柏の實を加へる。柏の實は油と香りとを多分に含み甚だ燃えやすいからである
製造の方法は木屑、樹皮、柏の實を石臼で細かにくだき、大鍋に入れ、煮沸

は六本、黄紙や紅紙で包む。この單位は一棵と稱してゐるが、大體熟練工は日に五百棵を仕上げる
中國全體の香の消費量は莫大なものではない。北京だけでも一年に五、六十萬元を下らない。北京和平門外には香廠路と云



つくる

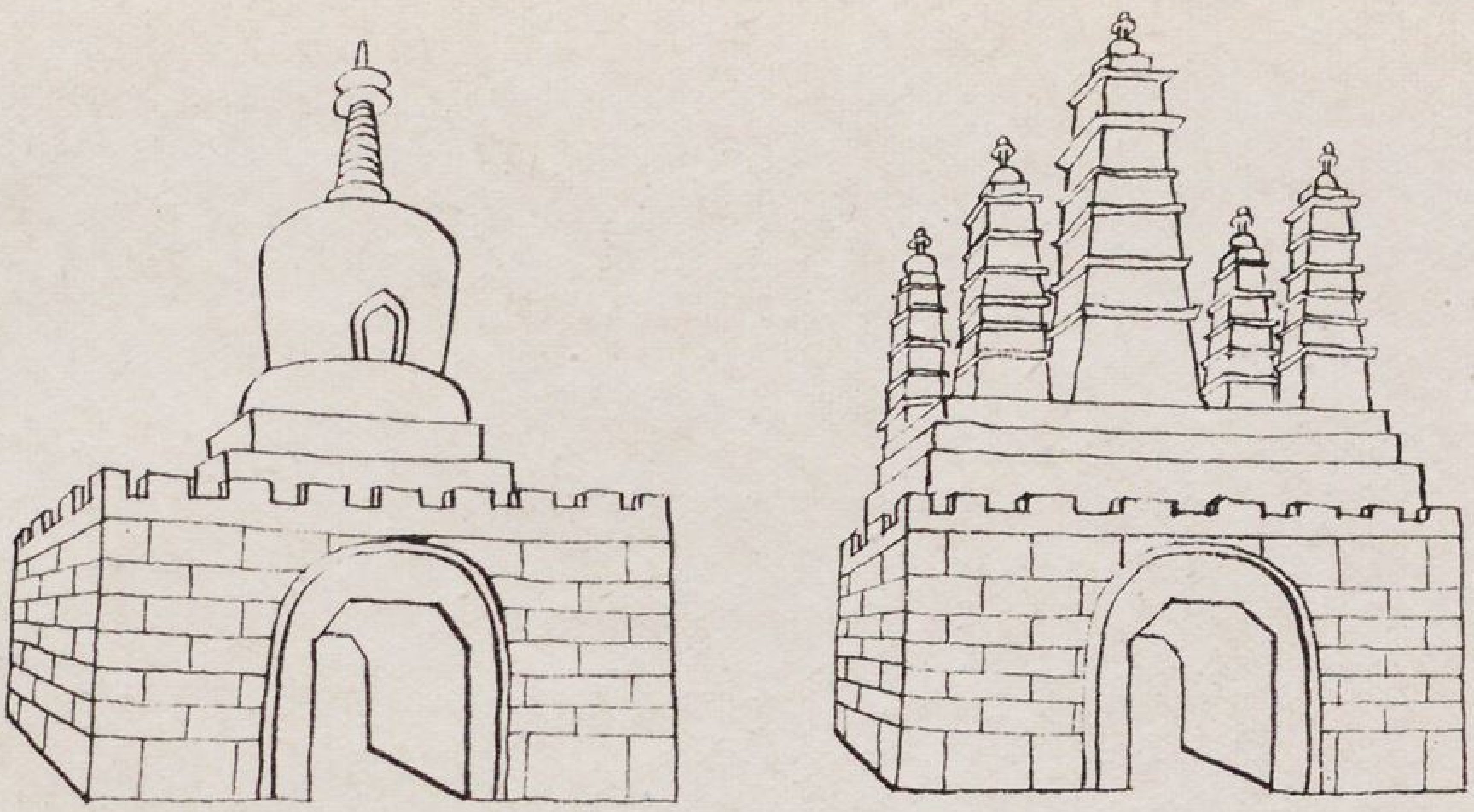
Making Powder

達してゐる。香には線香、棒香の二種
があるが、北支に使用されてゐるもの
の大部分は線香で、俗に高香と呼ばれ
てゐるものである

後攪きまぜて粘状體となし、色々の形
につくつて日光に乾して仕上げる。多
は一日、夏は僅か三時間程度で出來上
る。包裝は細長のもの十九本、角柱形

はれる地名があるくらゐで、清朝華か
なりし頃、この界隈一帶に香廠、香店
が軒をならべて殷盛を誇つたところで
ある

燒香



The Kuo Chieh Tower
of Chu Yung Kuan

雲臺





拱道東壁北側の浮彫・持國天王・右方には六體の文字で陀羅尼經が刻まれてゐる

居庸關の過街塔

京包線南口から重嶺疊々たる溪峪を進めば、居庸關驛の手前で、峻嶮に據つて構築された城壁がもの珍らしく見上げられるであらう。これは始めての旅行者をして既に萬里の長城だと合點せしめるものであるが、實は關所の城壁であつて、未だ長城ではないのである

居庸の名は秦の始皇帝が長城を築いた際、此處に庸徒を居息せしめたところから命名されたものだと傳へて居る。遽かに信用出來ない說ではあるが、隨分舊くからこの名があり、別に西關とか軍都關とか、或は納款關、薊門關などとも呼ばれた。北京が國都となつてから特に重要な關所となり、從つて歷代此處の警備に意を用ひ、明の如く蒙古の侵入におびやかされた王朝では取分けその修築に努めたものである

驛から數丁逆戻りをして古關を訪ふ。それはこの關の中央部にある有名な過街塔基を見物する爲だ。この過街塔基は別に雲臺とも稱し、俗には居庸關の關門だと考へられてゐる。が實際は喇嘛教で、弘法利生と道路安全とを祈願する爲に道路に跨つて拱門を造り、その上に塔を築いたもので關門ではない

これの着工は元の晉宗の泰定三年（西曆一三二六）以前で、完成はその後約二十年を經た順宗の至正五年卽ち元の滅亡する二十年許り前のことである。かくて、明になつても幸に保存され、正統年間には泰安禪寺の額頒すら賜つた。その後淸代になつて、遂に塔が壞れ、現在の樣に唯だ白石造りの基壇のみを殘した儘となつたのである

さて基壇の高さは約九米、幅二十八米奥行十六米、拱道の幅は七米である。近づくと拱門には迦樓羅や蛇神や蟠龍を現した見事な彫刻があり、更に拱道には廣目、多聞、持國、增長の四天王を初め、十體の如來像や千佛があり、天井を仰ぐと五個の曼荼羅も現はされて居る。特にまた注意を惹くのは兩壁の文字である。それは漢字のみならず梵字・西藏字・拔思發字・回鶻字・西夏字の六體の文字を用ひた陀羅尼經が刻まれて居るのだ

蓋し、この雲臺こそ元代の喇嘛教藝術を示す絶好の資料であり、更に又蒙古人が殘した世界に誇る可き貴重な文化的記念物でもあるのである

大地に育つ





振り上げた鍬先も揃ひ、若き明日の農夫に育つ

In the Bosom of Good Earth

種子は君、水は僕がと分業でやる共同作業



大空の下で、誰彼の區別なく、皆が皆同じ心で、同じ仕事をするのである。汗にまみれて誰れもが同じく朗らかに働いてゐる。自分ばかりが骨折るのではない。努力の末に獲られた成果は皆で均しく喜び合はう。共同作業の愉しさの中に新しい支那の少年が育つのである

ない。働く人間の考へ方をも變へねばならない。舊い個人主義の傳統を棄てて若い世代は全體の爲に働くことを學ぶ。日本でも、學生の勤勞奉仕や共同作業が盛に行はれてゐるが、事變下の支那に於てもまだ一部ではあるが、同じやうなことが行はれてゐるのは注目すべきである



自衞隊の指導者になる猛訓練



收穫の喜びを均しく共に

傳令使命を帶びた少年、責任感を養ふのだ



大陸特有の明るい空がある。見る限りの畑地がある。自然は豐かな收穫を約束してゐる筈であるのに、十年九災、支那の農民は貧と飢から救はれなかつた。農村問題は何處の國でも難かしい問題となつてはゐるが、半植民地的と言はれる支那に於ては、特にその困難も甚しい。立ちおくれた農業を近代的なものにする。種子の改良や、肥料の研究、耕作の機械化だけでよいのでは

共同精神の涵養が、自衞のための協同訓練、生産改良の共同作業等を通じて日々に昂められてゆく。振り上げた鍬は陽に輝き、翳した旗は風に飜る。明日の中國を擔ふべき少年隊は、かうして成長してゆくのである

寫眞は華北交通會社が交通路の保全と鄉村育成のため設定してゐる愛路村に於ける少年隊のスナップ。彼等の指導にあたつてゐるのは華北交通の日本人社員である





五臺山 1

山西省北部の五臺縣、その北端に靈地五臺山がある。中臺の臺懷鎭部落を中心として正統佛教たる青廟と喇嘛教たる黄廟の寺院が林立してゐる。臺懷鎭には有名なる白塔が聳え、見遙かす西方に菩薩頂が望まれ山峽を清水河の清流が五峰を縫つて流れてゐる。七、八月の候には五臺は緑の牧草で覆はれ高山植物が美々しく咲き競ひ、山間の部落民が馬、羊、牛などを追ふ姿は、朝な夕な山峽にこだまする寺院の梵鐘と勤行する僧侶の合誦と共に永遠に續けられる一幅の名畫である

はるばる數十日を費して滿洲・蒙疆方面
より徒歩や馬でお詣りに來る信者達

The Festival of Wu Tai Shan





六月大會の盛況、跳鬼の行列に集まる信者達



臺懷鎭、此處は殆んど寺院ばかりで
終日讀經の聲の絶えるところがない

菩薩頂下の壁畫、跳鬼の扮裝



五臺山

2



碧山寺の本尊、千手觀世音菩薩

事變と共に杜絶えた六月大會が、昨年皇軍の手によつて復興せられ、來年再び新民會山西省總會の努力によつて開催された。數十萬の信徒は隨喜の涙を流して感謝した。醫療の始め各工作隊が之等支那民衆の感激に應へて活動した

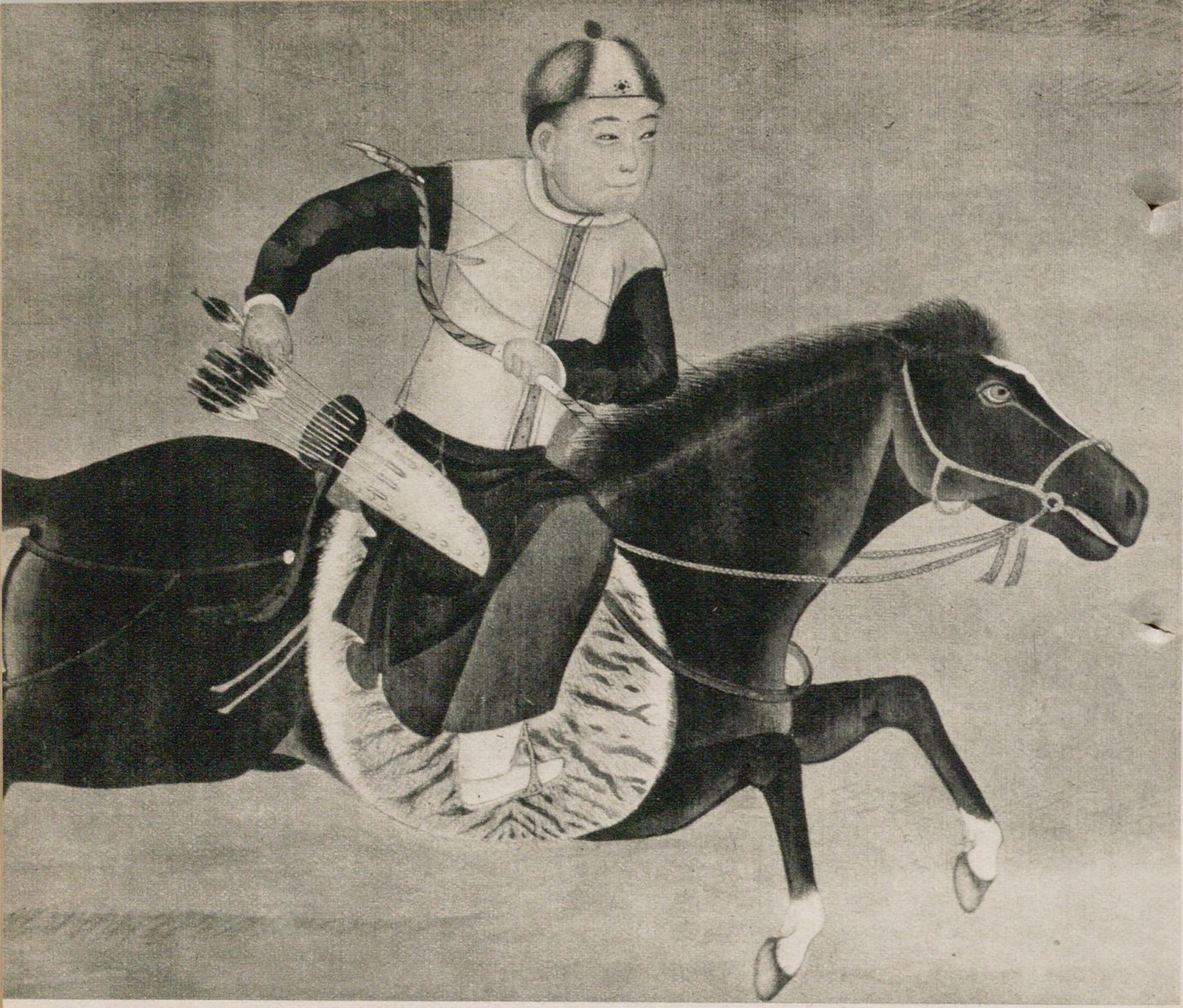
執拗だつた共產軍の壓迫も今はなくて五臺山は新生の歡喜の裡にわが世の春を謳歌してゐるのだ

The Festival of Wu Tai Shan

來山せる蒙古人




雍正三年十月為
南沙相國屬畫
海西郎世寧畫

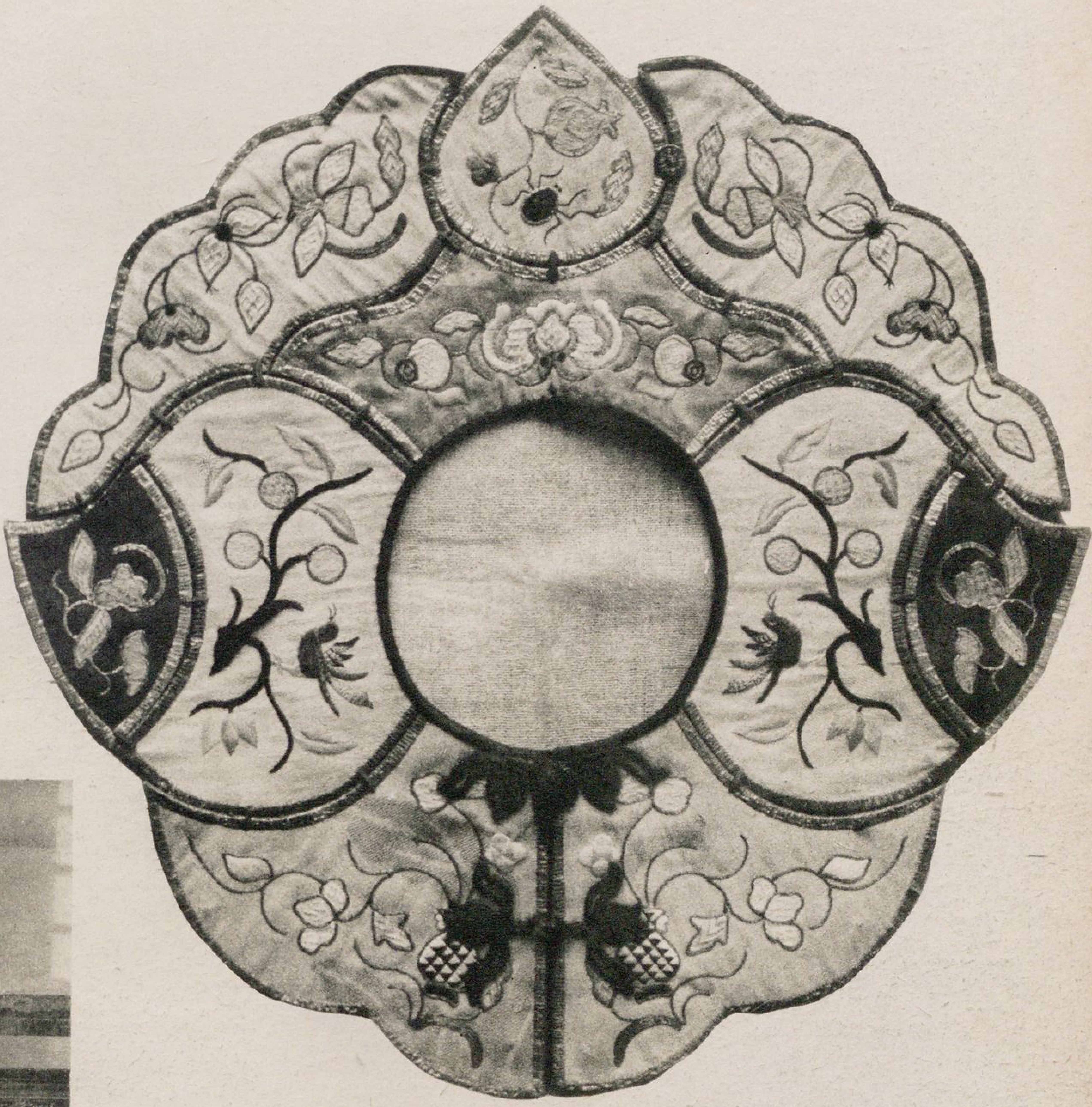


A Masterpiece by Joseph Castiglione

谿山得祿圖

朗世寧筆

この畫は竪三尺、横二尺五寸で、郎世寧の畫としては割合に小さいものである。しかしかれの畫のうちで、出來のよい一つである。順治帝が馬にのつて鹿を追ひかけ、射た一矢が尾部にあたつた圖で、つまり鹿（祿）を得るに因む。「雍正三年十月、南沙相國の屬のために畫く」と題してある。郎世寧の傳歷については詳しいことはわからない。生年は、異說もあるが、「石刻乾隆御旨」に據つて逆算すると、康熙二十七年らしく、その五十四年、數へ年二十八歲で、天主教の宣教師としてイタリヤから支那に渡來した。かれの原名は Giuseppe Castiglione であるが支那でのかれ自身の畫には「郎世寧」と、明朝體で正書してゐる。來て間もなく畫院に供奉したらしい。年代のわかる最初の遺作は雍正元年である。それには「臣郎世寧恭繪」とある。雍正帝の御用畫家であつた。代表的傑作の「百駿圖」は雍正六年筆である。「馬の郎世寧」としてこの得祿圖はその三年前、四十歲頃の、あぶらののりきつた頃の精作である。南沙相國とは有名な蔣廷錫、字揚孫、號一谷のこと。大學士で、花卉畫をたくみにし、郎世寧の親友で、合作もある。この畫は現に嘯閑樓主人楊先生の愛藏





細密精巧な手藝は、中國の一特技である。わけて刺繡と刻絲は夙くから驚くべき發達をした。刺繡工藝は三代以前に始まるとの說あるほどに古く、服飾布帛の紋繪は、織よりも繡が主であつた。遺物の參考には日本製であるが、聖德太子薨去直後の、天壽國繡曼荼羅が中宮寺にある。一日に一寸角を縫ひ二十年もかかつた力作もあるといふ。軟かい白絹に刺繡した紈繡、かたい葛布に施した絺繡、諸色の絲を用ひた綵繡、金銀絲を主とした錦繡、縫ひつぶしに刺した錯繡（さがらぬひ）などがある。更に用ひる絲や、縫ひ方によつていろんな種類や技術がある。ここにはあり觸れた市販のもの數點を例示する。但し近年は西洋風のフランス刺繡なども行はれる

有名な書畫家の原筆に據り、眞物と紛らふばかりに精美な、驚嘆に價するものがある。ここに示すは清朝初期の文官の胸章である。刻絲に似たアップリケは、布地上に圖樣、繪畫を色布片で切り作り貼つて外緣をかがつたものである。

刺繍 一





胸のあたり、袖、すそに美しい刺繍を
ほどこしてゐる—明時代の服裝





無敵！國産第一位
ムッソリーニペン
スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産絶品！
クラウン万年筆
書きよく
體裁優美
構造堅牢
流線型
北京 北海公園
新生國策イリヂュウム
白金ペン付
大阪 株式會社 澤井商店

連雲港

柿崎　勇

連雲はまだ不開港場である——が然し今日東亞新秩序建設陣に重要な役割を擔當し、急速な發展途上にあることは港、連雲が將來を約束された、種々の要素と條件に惠まれてゐるからであらう。連雲港は世人周知の通り隴海線の起點であり、我が本土と支那を結ぶ最短距離にある大陸の門戸である。

江蘇省灌雲縣老窰は其の地名であり黄海に東面し、前方約三粁の海上には鷹遊島（東連島、西連島より成る）を浮べ、東西八粁、南北三粁の同島は天然の防波堤をなしてゐる。

港の背後には巍然たる雲台山聳え、標高六四三米、其の山膚は北支に類なき松樹の綠濃く、中腹の山峽には連雲ホテル其他近代的建物が點在し、山の姿、海の眺めは何處となく內地の風光を偲ばせるものがある。

連雲は神戸、大阪と略ゝ同緯度に位し、氣候は概して溫和である。しかし大陸的氣候なるは免れず、盛夏には四八度に昇騰するけれども夜間の海風は涼氣を誘ひ、酷寒時には降雪は多少あるが氣溫は零下十度に下ることは極めて稀である。

連雲が我國と交渉を有するに至つたのは遠く明の太祖時代倭寇が鷹遊島を根據として地方的勢力を扶植したのに始まる。倭寇の侵入は餘程辛辣を極めたと見え、嘉靖末年に胡宗憲が編した籌海圖編に「倭寇猖獗し、東南半壁は殆ど寧土なし」と思伸が序文を加へ、其の本文に「江北倭掠海州殺二百餘人」とあり又「今の海寇動もすれば數萬人を算しみな托して倭奴と稱するも日本人は數千にして、其の餘は則ち皆中國の赤子無頼の徒之に和するなり」との意を書いてゐる。以て內外倭寇の侵略の情景を窺知するに足るであらう。

鷹遊島には嘗て彼等の遺跡が多數存在したのであつたが蔣政權の排日政策の犧牲となり、今日は僅かに島民の言語風丰や蓑笠、鞋等の農具に其の片影を止めるのみで歷史的遺物が全く破壞せられてゐるのは殘念である。

由來支那は海岸線短かく良港少なき上に廣東、香港、上海、青島、天津、秦皇島等の諸港は總べて外國領であるか又は外國の權益下にあつて、自國經營の海港と稱するものがない。此の實情に鑑み舊國民政府は自國經營の港灣建設を企圖し、各地を物色したのであるが一九一二年政府は白耳義シンジケートと甘肅省より海州に至る延長一八〇〇粁の隴秦豫海鐵道（隴海線は此の略語）の敷設と東方終端に港灣の築造契約を締結した。

然し乍ら港灣の位置が決定しない間に歐洲戰亂起り此の契約は解除され、一九二〇年改めて政府は上述の白耳義シンジケート及和蘭治港公司と契約し一九二五年靈寶、大浦間の鐵道工事を完成したが時恰も中國の政變頻發し、外國借款契約は繼續不可能に陷り、遂に終端港の築造を放棄するの餘儀なき狀態に立ち至つた。爾來十年間大浦の臨江河口の碼頭に依り船車連絡を求めたが此の碼頭は到底千屯級の船舶は望み難く、且つ隴海沿線よりの物資は津浦、京漢兩鐵道を經由して外洋貿易に流出する狀態にて徒に兩鐵路の培養線たる觀を呈する結果となつた。

茲に於て時の隴海鐵路局長錢慕霖は西連島海面に築港計畫を樹て鐵道部長顧孟餘に具申して一九三三年五月和蘭

內容

治港公司と三百餘萬元を以て、築港工事の請負契約を締結した。連雲港とは乃ち此の契約に際して命名された稱呼にして西連島と雲臺山の間に所在するので斯く呼んだのである。

同港の築港計畫は當初二案あつた。第一案は佛人グリーンの設計にて連雲の具備する自然的條件を最大限に活用し、第一期、第二期工事に分ち之が完成の曉は、七八千屯級船舶實に百隻の同時繋留を可能ならしめ、四十隻の大型船は自由に港内に投錨を許すと云ふ東洋屈指の大港灣計畫であつた。

第二案は蘭人ブラツクの考案にて長さ四五〇米、幅六〇米及五五米の碼頭各一基、其の他一〇五〇米の防波堤を突出せしめ、延長約五粁の航路を浚渫し之を深海に導くの案であつた。

政府は隴海線の輸送能力を考慮し又第一案の如き厖大案は實際的ならざることを知り、茲に第二案の現實に卽した案を採用することになつた。

此の築港工事を請負つた和蘭治港公司は恰度滿洲事變に際會し同公司が張學良との間に契約した壺盧島築港契約が解消され、築港用資材が芝罘に集積されてゐたので之を連雲に流用し、一九三三年五月契約成立と同時に一切の準備を完了し同七月一日起工式を擧行したのである。

本工事は初め一ケ年で完成の豫定であつたが屢〻難工事に逢着し、連日陥没箇所の補修に追はれ工事は遲々として進捗せず、遂に海底調査の不備、技術的缺陥も暴露し之が爲に計畫に齟齬を來したが、設計變更を重ね一九三六年五月起工後三十五ケ月を費し、辛じて竣工を見るに至つたのである。

第一碼頭は雜貨荷役の爲に起重機五基、倉庫一棟、其の他荷役機具を設備し、第二碼頭は石炭作業の爲に起重機二基、ベルトコンベヤー等を整備し、其他碼頭の附屬施設として發電所、水道、燈臺等も計畫し名實共に中國獨自の近代的港灣が上海、靑島と竝んで偉容を現したのである。然して此の碼頭が其の能力を如何に發揮したるや適確な資料を得難い實情にあるも、事變直前卽ち昭和十二年度上半期輸出入實績より推定し年間優に八十萬屯は呑吐したものと思はれる。

然るに今回の事變起り昭和十三年五月我が海軍の精鋭が孫家山附近に敵前上陸を敢行するや、敵は敗走に當り徹底的に碼頭の爆破を企て、傷しき殘骸を止めたるのみであつたが陸海軍協力の結果復舊成りて今日華北交通の手に依り再び活躍を續けてゐるのである。

以上の様に連雲港は實に波瀾重疊、荊棘の途を辿つて來たが、彼は伸びんとする底力を抱いてゐる。一難は一難毎に彼を大成するに役立ち、決して彼の生命は終熄を知らないであらう。

何故ならば連雲は所謂支那中原を貫く隴海線唯一の海港である。隴海線の持つ使命は擧げて連雲に懸つてゐる——之が卽ち連雲の底力であり、重要性を謳はれてゐる所以である。

連雲は北支、蘇北七省を背後地に有してゐる。古來中原を制する者は支那を制すといはれてゐる通り政治、外交、軍事は勿論經濟的にも幾多の重要性を擔つてゐる。

先づ輸出入物資に就いて其の重要性の相貌を一瞥するならば、第一は石炭と鐵とである。粘結炭で有名な棗莊を始め孤山、焦作の諸炭は等しく連雲の勢力圏であり、利國の鐵鑛亦連雲に集つてゐる。近くは錦屛山の燐礦石、滿俺礦等の豐富な地下資源は旣に旺盛な對日輸出となり、更に又江蘇省北部海岸南北一三〇粁に亘る一帶の鹽田は無限の海州鹽を內地に供給してゐる。

廣大な背後の肥沃な農耕地は豆類、落花生、棉花、胡麻、畜産等の一大産地である。

然かも連雲より海路門司迄は五〇〇浬、上海四二〇浬、大連三六〇浬の短距離にあり日支、北中支の貿易は地理的に絶對優位の地を占めてゐる。

將來隴海線が寶雞より蘭州を越え奥地甘肅、新疆を過ぎて近東地方に伸び盟邦獨伊に達したる曉を想ふ時、獨り奥地の開發のみならず、此の樞軸ラインが政治、軍事と結び如何に連雲の重要性を増大することであらう。

今や我が日本の技術と資本が此の地に採用されたのである。港の前面鷹遊島の間にある廣大な港域は未だ其の數分の一を利用されてゐるに過ぎない。

奥地開發の爲に又新東亞建設の爲に亞歐の大玄關連雲の擴張計畫には思ふ存分驥足を伸ばし得る狀態であり、その機會にある。

海州金屛山より望みや
隴海萬里の雲のはて
歐洲娘がナゲキツス

連雲娘が海州小唄を唄つて踊れば波も之に調子を合せる平和郷連雲が陸路と海路を取りもつて、日本と歐洲を取り結ぶ日——それは案外に早く訪れて來るのではなからうか。

（筆者は華北交通水運局員）

北支の陶器

その一般的特徴、特に南支の磁器との相違に就いて

小山富士夫

南船北馬を支那大陸交通上の特徴とすれば、南磁北陶は支那陶磁史上の二大區分である。かつて故中尾萬三博士は支那陶磁器を南北に分け、南方には主として磁器が發達し、北方では主として陶器を燒產したと述べられたことがある。洵に傾聽すべき卓見で、最近私も北支各地の窯跡を踏査し、つくづくこの感を深くした。

古く漢時代、既に磁器の創見されてゐたことは、支那民族が世界に誇るべき一大發明であらう。歐羅巴諸國がこれに驚嘆し、苦心慘憺その模倣につとめ、ドレスデンのフリードリツヒ・ベツトガーが漸くこれに成功したのは一七〇九年のことである。支那に於ける磁器の發明は、今日世界文化の中心とされてゐる歐羅巴に先ずること千數百年の昔で、これは如何に古くから支那の窯業が發達し、その文化の偉大なものであつたかを雄辯に物語るものであらう。

支那のどこで始めて磁器が造られたか、遺憾ながら今日未だこれを決定すべき資料は發見されてゐないが、浙江省紹興附近は、最も古くから發達した地方と見做されてゐる。民國十二年、河南省信陽から後漢永元十一年銘の甎を伴ふ一古墳が發見され、その中から紹興九巖鎭窯と見做すべき青磁數點が發見されたことがある。又中村不折畫伯は後漢中平三年の銘のある磁製匜を藏されてゐるが、これ亦同じく九巖窯かと思はれるもので、紹興九巖窯では古く漢代既に青磁の祖型とも謂ふべき一種の磁器を燒造してゐた。勿論當時の青磁は今日謂ふ青磁ほど進歩したものではないが、燒成火度は略〻今日の青磁白磁に近く、相當高度の文化的產物であることは確かである。降つて隋唐時代には江西省の景德鎭、及び廣東省廣州で白磁の燒造されたことが傳へられてゐる。特に唐代景德鎭の白磁は今日の白磁も及ばない精薄秀麗なもので、當時支那に旅したアラビヤ人がこれを見て驚嘆したといふ記錄があり、支那磁器の名を世界に高からしめたものである。その後白磁青磁燒造の技術は漸次、江西、安徽、浙江、福建、廣東の各地にひろまり、これらの地方は支那に於ける磁器の主產地として知られるに到つた。就中江西省景德鎭、吉安の白磁・染付、浙江省龍泉・處州の青磁、福建省石碼の所謂吳須赤繪は古來最も有名で、何れも廣範な世界的市場を占めてゐたものである。

これに對し北支諸窯は概ね陶器を產し、定窯を除いては磁器所產の窯は皆無と謂つていい。そして南方の磁器が支那人の創意によつて發明されたのに對し、北支の陶器は西域文化の影響によつて創められたものとされ、漢の綠釉陶、唐の三彩はその好例とされてゐる。この見解には猶多分に疑問とすべき點があるとしても、北方陶器がその器形・文樣・作風・技法の上に、中亞西方諸國の陶器と多分の類似共通點のあることは事實である。例へば北支の陶器を代表し、最も一般的な作風を示すものといへば先づ磁州の所謂繪高麗を擧げるべきであらうが、その器形、特に口作り耳付けは西域ペルシヤ陶器に近似するものが頗る多く、又その文樣にもイラン系のものを屢〻見、高臺の作行き、白化粧の調子等、全く區別し難いものさへある。

南支と北支とは單に南方に磁器を產



し、北方に陶器を產したといふばかりでなく、これを生み出した要因に根柢的な差違のあることに留意しなくてはならない。

その一は窯樣式のちがひである。南支の窯は概ね傾斜地を選び、これを蛇が這ひのぼるやうな形に築かれ、俗に登窯（のぼりがま）又は蛇窯、割竹窯等と呼ばれてゐる。連房式のものもあり、單室半圓筒形のものもあり、又地表に築かれたものもあり、なかば地下に埋沒してゐるものもある。一言にして謂へば斜面に煙突を倒し、その中に燒物をいれ、下から焚き上げるやうなもので、火の燃え易く、從つて火度がたやすく上り、焰の自ら還元性を帶びるのがその特徵である。これこそ支那で磁器の發明された何よりの原因で、この樣式は南方支那に始まり、後、朝鮮日本にひろまつた東洋獨自の窯樣式である。これに反し北支の窯は必ず平地に碗を伏せたやうに築かれ、俗に丸窯又は兜窯と呼ばれてゐる。外形はドーム型だが、燒室は方形で、これに丸い天井がかぶさつてゐる。煙道は別にこれに接して築かれ、南方の窯のやうに、窯即ち煙道なのとは、その構造を全く異にしてゐる。この種の丸窯は登窯に較べると燃燒速度がおそく、自然火度も急激には上りにくく、焰も自ら酸化性を帶びる性質のものである。この窯樣式は最も一般的なもので、恐らくはエヂプトに起源を發し、ひろく歐羅巴各地、西方亞細亞、中央亞細亞、北支那一帶にひろまつてゐるものである。即ち單にその窯樣式だけから謂つても、南支は民族的な要素をもち、北支は國際的な性格をもつてゐる。

その二は燃料の相違である。南支では概ね松薪、雜木、枯草を用ひてゐるのに對し、北支では必ず石炭を燃料としてゐる。從つて南支では主として原土や水や輸送の關係から窯場が決定されてゐるのに對し、北支では少ず炭坑の近くに窯場が發達してゐる。私は今度北支を旅して今更にこの感を深くしたが、今回私の踏査した窯に就いて謂つても、河北省磁縣炭坑のそばには北支第一の磁州窯があり、唐山炭坑のそばには唐山窯があり、門頭溝炭坑の近くには琉璃廠（北京紫禁城の瓦を燒いた窯）があり、井窯炭坑の近くには橫口鎭窯がある。又今度私の發見した定窯々址はこれをめぐつて十數箇所に露天掘りをしてをり、內邱北方の磁窯溝の窯址は、その近くに西邵明炭坑がある。山西省では特にこの關係が顯著で山西の有名な炭坑の近くには多く窯場があり、又古窯址の附近には必ず炭坑があると謂へる。例へば有名な陽泉炭坑のそばには宋以來有名な平定窯があり、大原西山炭坑のそばには西山窯があり、大谷、楡次、霍州、潞安、澤州等、唐宋以來有名な古窯址の附近には必ず炭坑があつたもののやうである。其他河南省李封炭坑のそばに柏山窯、李里窯があり、山東省博山は炭坑と同時に宋以來の製陶地として知られてゐる。これを概括的に見て、北支で最も炭坑の豐富な山西省には最も窯が多く又同じく河北省でも炭坑の多い大行山脈の南麓にそつて、古くから製陶が發達してゐる。即ち北支では窯場即ち炭坑地で、私の踏査した限り一つの例外も發見し得なかつた。

その三は焰の性質の相違である。焰の性質は、燃料及び燒成方法に左右され、石炭は火力が強いかはりに焰が短く、薪、枯草は焰はたつかはりに火力が弱い。火力の強く燃燒時間の長い石炭を用ひる北支の窯では、俗にネラシと呼ぶ燃料を緩漫にくべる焚方をし、從つて焰の切れる時間が長く、稀薄ながら窯內に空氣のあるため、釉藥熔融の際酸化作用をうける。これに反し火力の弱くすぐに燃えてしまふ薪、枯草を焚く南支の窯では、俗に追（お）ひ又は攻（せ）めといつて間斷なく燃料をくべ續ける焚方を用ひ、窯內は常に焰が充滿し、從つて、空氣の介入する餘剩がないため、釉藥熔融の際還元作用をうける。即ち支那陶磁器は南方の磁窯は概ね還元焰燒成であり、北方の陶窯は概ね酸化焰燒成であるのがその特徵である。從つて青磁辰砂染付のやうな還元焰燒成を必要とするものは南方で燒け、定窯、磁州窯のやうに牙白色又はミルク白色を呈するものは北方で燒け、一言にして謂へば南方のものは青味を帶び北方のものは黃味を帶びてゐる。

その四は胎質の相違である。周知のやうに磁器は主として長石を粉末にして器地としたものであり、陶器は粘土をねつて作つたものである。石の豐富な南支には自ら磁器が發達し、粘土しかない北支では陶器が發達したのであらう。猶ここに注意すべきは粘土と石炭との關係で、地質學的には深い關係があるらしく、一般的に謂つて石炭層を挾みその上下に粘土層があるとのことである。從つて炭田地區からは石炭と同時に粘土が採掘され、北支の特徵として製陶の炭坑地に發達してゐるのはひとり燃料の關係ばかりでなく、同時に原土の關係にも據るものであらう。

中共最近の動向

關原利夫

『われらの勢力は既に太平洋岸に達してゐる』とは昨年十一月北支某地で開かれた中共北方局會議の席上、中共幹部たちが豪語した言葉である。昭和十二年八月廬山における周恩來、蔣介石らの對日軍事協力會談以後、明滅する國共相剋の宿命的事態を一應その背景に持ちながらも文字通り燎原の火のごとく膨脹して來た中共の北支を中心とする赤色勢力には驚くほかはない。

膨脹の頂點

昨年二月の延安における中共幹部會議は第二次歐洲大戰による英佛援蔣勢力の後退の虚に乘じて、ソ聯を背景として俄然積極的な重慶攻勢を決議したが、七月の七中全會はこの『延安二月會議』コースを更に前進せしめ、中共の野望達成に一歩近づく結果を招來した。『聯ソ親米』方針を決定した七中全會はこれらの客觀情勢から國共問題委員會における中共側の提案を殆んど鵜呑みにし國共問題調整辦法九ヶ條を決定してしまつた。華北領導權、兵力擴大、銀行の開設、國民黨中央軍の華北からの撤退など中共の著しい膨脹度に拍車をかけ、しかも中共の企圖せる第三期抗戰計劃は、重慶側の第三期整訓完成を狙つて國共軍事協定締結に成功、朱德の山西入り、陳誠の延安往來など重慶軍事委員會の名目の下に例の『百團對戰』なる進攻態勢を企圖したのであつた。しかもこの動きのうちには劉伯誠、陳光、林彪らによる石友三、龐炳勛、沈鴻烈、張蔭悟ら蔣系軍北上企圖牽制といふ一石二鳥の謀略も含まれ、依然として毛澤東のいふ『國共合作は合作し得る可能性と合作し得ざる可能性の二つの可能性を含む』の兩黨合作の限界を示した。これらの中共進出態勢のため一九三八年以來毛澤東の唱導せる擴大主義を全面的に展開し、擴軍擴黨工作を進める一方、延安抗日大學、魯迅藝術學院、陝西公學などの華北進出を促進した、百團對戰は八月下旬わが京漢、石太、同蒲の各線にわたる一齊襲擊と平地地區工作の急速度の展開による物資補給路線の確保を直接の目標としたが、結果においては石太線への部分的破壞に止り、以後、晋東、晋中、晋西北に順次進められた我が肅淸によつて可成り傷手を蒙つた。

さらに中共が前記『八月提案』に次いで九月周恩來が作戰區域および遊擊隊の調整について重慶側に提議した。

（1）第二戰區（十八集團軍の作戰地域）を山西全省および綏遠の一部に擴大（2）十八集團軍（舊名八路軍）新四軍および各地遊擊隊の全部に軍費を支給する（3）各遊擊隊は各作戰分界に留り、分轄作戰を行ふの要求を中共膨脹の最頂點とし、延安側の飽くなき態度に驚倒した重慶部內には反共派の勢力漸く根強く擡頭し、また明滅する外交路線を『英米樞軸』に正式決定すると共にソ聯の中共援助の限界を認識し、これらを背景として十月十九日何應欽、白崇禧の名をもつて十八集團軍總司令朱德、新四軍軍長葉挺に對して重慶側七月提案に基く新四軍の移駐命令の實行を迫つた。これが重慶側本年初頭の對新四軍クーデターの前奏をなすものであり、アメリカの援蔣傾向がルーズヴエルトの三選により濃化、同時に英米樞軸による對日攻勢に便乘して移駐命令はさらに軍費支給停止を加へて拍車をかけられ、中共また表面上これを全面的に拒否出來

ず、一部隊の移駐を僞裝するなど慌しくも空氣は昂つた。しかもこの間韓德勤軍の追擊などの衝突事件を伴ひ一月上旬遂に顧祝同軍の新四軍包圍態勢、同十八日の解散命令となつて、エドガー・スノーの『事變以來最大の危機』に中共は直面するに至つたのである。

新四軍事件以後の中共

昨年八月を最絶頂とする中共の膨脹は一轉して急テンポの下降線的變貌を餘儀なくされ、百團對戰の失敗、重慶の對共クーデターを加へて新方針による再建へ向つた。晋東、晋中作戰、二次にわたる晋察冀邊區作戰によつて赤色據點の荒廢は可成りの深さに達し、その再建を困難なものとした。しかもここで注意すべきはこの再建計劃は世界情勢の推移と睨み合せて國共關係の破局を豫想して何時、如何なる場合にでも中共が一本立ち出來る對處體制の確立を含んでゐるといふ事態である。

（1）據點地區の再建を中心として軍黨政全面にわたる組織方針ならびに工作の再檢討と再批判（2）今次事變後山西潜入と共に一九三八年以來毛澤東の唱導せる擴大主義を克服し、一九三六年まで採用せる王明（陳紹禹）による關門主義——デミトロフのコミンテルン・コースへの復元（3）新地區への進出とともに現在の自己占據地區における工作の深度化としての經濟建設工作に重點を置き、合理負擔辨法、減利減息工作、貿易局などの工作の全面的展開、新民主主義の滲透と睨み合して漸次ソヴエート化への指向

などが新方針として擧げられる。擴大主義の克服は從來の擴軍、擴黨工作の無制限的伸長が百團對戰に暴露されたやうに兵士の素質劣惡化、政治工作員の右翼的日和見主義、英雄主義的偏向を招來したことが直接の動因であり、關門主義による肅營工作は本年一月以來各地に設けられた肅反委員會の手によつて山西地區のみで二千に達するテロを斷行した。また軍內部における肅軍の線に沿ふ各旅の改編、『三一訓練』の名による各軍が交替で三分の一の兵士を再訓練、休養せしめたことなどこの間の事情を物語るものといへよう。

據點地區の再建に關しては經濟建設新方針が各地區の經濟的把握度の向上强化、すなはち集約度の向上を目標としてゐる點にうかがへる、昨年十一月北方局幹部會議で彭德懷（十八集團軍副司令兼北方局書記）が說明した『一九四一年度中共經濟建設要綱』はわが作戰による物資ルートの完封、經濟建設基地の荒廢を卒直に認め、今後の工作の重點を現在の地區に對する徹底的回復工作とそれに基く自給自足經濟の確立にありと說き、さらにこれと並行して昨年十月延安における中央、地方局の第四次擴大會議で王明が『各地工作のうち、河北省が最首位の成果を收めた』と許した特に平地地區工作のうち工作深度の比較的淺い地區に合理負擔辨法ならびに貿易局の工作を新民主主義政治圈の擴大と相まつて强行し、物資補給地區としての任務を、一層深化しようとする方向にも充分認められ、その點本年初頭『冀南日報』が掲げた『冀南の一九四一年鬪爭方針』の基礎をなす新民主主義の推進は注目しなければならぬものであつた。また昨年十一月決定をみたと傳へられる『晋察冀邊區政府一九四一年經濟建設計劃』も生産工業の建設、農業增産計劃、貨幣政策、經濟建設の諸項目をあげ、保有地區の經濟的集約度の向上を指摘してをり、さる一月下旬の陝甘寧邊區政府管下縣長會議で邊區政府主席林祖涵は經濟建設において自給自足經濟と邊區銀行本位建による金融政策の遂行は當面の事態に卽應する最重要なる政策であると述べてゐることなど經濟工作の重點化を狙ひつつある中共の新しい動向であらう。

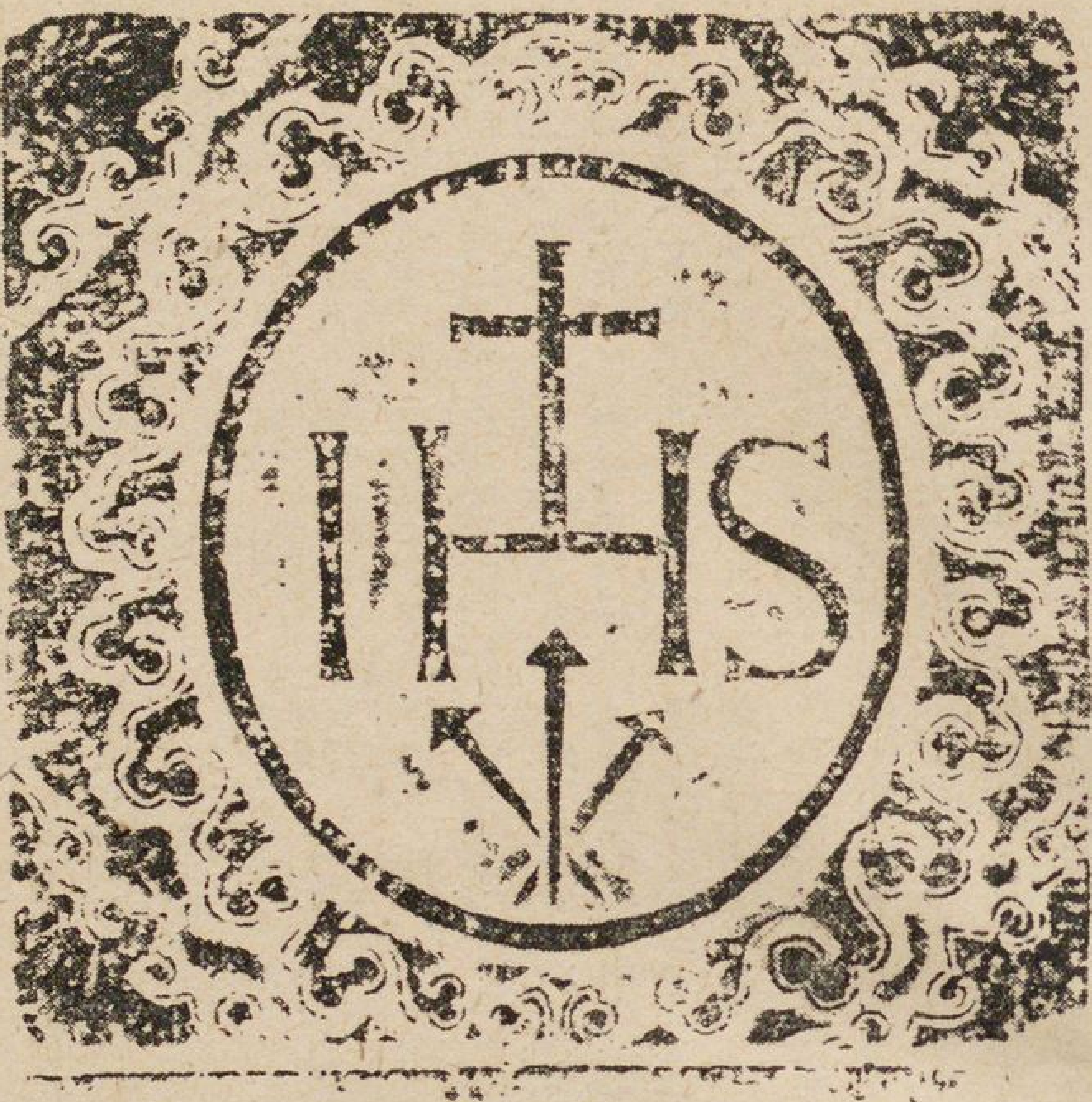
北支制壓の野望

日ソ中立條約の締結が中共に與へた影響には相當大きなものがあらうと考へられるが、本條約に對する延安側の正式意見、乃至は豫想されるコミンテルンから中共本部への指令などほとんど一般には傳へられてゐない。しかし本條約によつて中共が北支を放棄するやうなことは絕對考へられず、最近の中原會戰においても中共の蔣系地盤への進出野望がしきりに傳へられ、本年初頭以來衞立煌、劉伯誠停戰協定地區といはれる豫北林縣附近で孫殿英、龐炳勛ら中央軍と對峙をつづけてゐた劉伯誠麾下共産百廿九師の新編五、六、九旅が中原會戰の中央軍の集結の虛に乘じ南下態勢を見せたり、第九十三軍長劉戡が『大行、大岳決死縱隊長薄一波らが今次戰鬪の虛に乘じ暗躍しつつあり』と衞立煌に報告したといはれるやうにあらゆる好機を逃さず北支制壓を企圖し、毛澤東の『對峙狀態（日本軍と國民黨との）にある間に、國民黨軍に對し、共産軍の勢力を增進せしめる』方針を具體化してゐることは、今後國民黨軍の著しい凋落に伴つて重視しなければならぬ事態である。

（筆者は東亞新報社員）

郎世寧

石橋丑雄



郎世寧の墓碑の上部の拓本

年若うして耶蘇の宣教師となり、祖國を遠く北京に來て萬里異域の宮廷に奉仕し、立派な作品を澤山に殘して居る郎世寧は、本名をカスティリオーネ GIUSEPPE CASTIGLIONE と稱する伊太利人であつた。俗に朗世寧・郎士寧・良世寧等としたものもあるが何れも謬りで、また寧の字を寗とするのは、清朝時代に宣宗道光帝の御名旻寧の字を避けたのに因るものである。

彼の出生に就いては異說もあるが、西紀一六八八年（皇紀二三四八年…康熙二十七年）七月十九日に、伊太利のミラノで生れたと謂ふのが正しい様である。耶蘇宣教師になつたのは十九歲の時で、始めて北京に來たのが康熙五十四年（西紀一七一五年）の十一月二十二日と傳へられるから、卽ち二十七歲の冬であるが、この時同道したのはカスタ GIUSEPPE COSTA と云ふ伊太利人宣教師で、後に漢名を羅懷忠と稱し醫藥に深い造詣を有した人であつた。當時北京には、宣武門內の南堂と東安門外の東堂と、西安門內蠶池口の北堂と、阜成門外の聖堂との四教會堂があつたが、燕京開教略に據るとカスティリオーネは始め、葡萄牙人の宣教師を補助して東堂に住したとの事で、郎世寧の漢名も當時から用ひたものの様である。

彼が宮廷に召されたのは其の墓碑に據ると康熙朝からとなつて居るが、石渠寶笈に見える其の作品としては、雍正元年（西紀一七二三年）九月十五日と記された聚瑞圖が最初の物と思はれる。之は彼が三十五歲の時のもので、爾來其の後半生を宮廷の畫院如意館に供奉して天才的彩管を振ひ、雍正六年二月には、かの百駿圖の大作を完成して居る。此等の多くは支那の絹地に毛筆を用ひて描いたもので、要するに支那の材料を使用して洋風畫を描いたのであるが、其の間東西の兩畫風を折衷した苦心の跡が見られる。之に關しては或は東西の畫風を交配した成功を稱へる人もあり、或は畫道の墮落と誣ひる人もあるけれども、其の結果は物理學的な調和は出來ながら、化學的に今少し物足らぬ様な觀は無いかとも思はれるが、兎に角彼の畫風が當時の畫院に於いて最も特異なる一派をなし、西洋趣味好愛の乾隆帝から殊遇を蒙つて居たのは事實の様である。

扨て當時北京に居た宣教師等の動靜を見ると、康熙の初頭に欽天監に關する勢力の確執から、回教徒監員の策動に禍せられて一時彈壓を蒙つて居た布教が、康熙八年に白耳義人フェルビースト（FERDINANDUS VERBIEST. 南懷仁）の欽天監副に任ぜらるるに及んで、遂次、其の頽勢を挽回するに至つたが、康熙三十一年（西紀一六九二年）二月聖祖は上諭を以て漸く布教の禁令を解かれたのであつた。

然るに世宗雍正帝の卽位を見るや宣教師の帝室を攪亂する様な陰謀事件が發覺したのに加へ、浙閩總督滿寶等の之が禁止方に關する上奏があり、雍正二年（西紀一七二四年）には、帝は遂に國家百年の大計を思うて基督教禁止の上諭を下し、北京に於いて欽天監や畫院等に奉仕しつつある宣教師の外は悉く之を澳門に放逐せられたのであつた。此の禁令はあの西洋趣味を解する高宗乾隆帝の卽位後も解かるるに至らず、宣教師等は只科學者・技術者としてのみ宮廷に奉仕せしめられた。

當時郎世寧の殊遇を利用した宣教師等は、彼に勸めて登極の直後から其の苦衷を皇帝に訴へしめ解禁の運動を續

けて居たが、後に澳門に在つた四十餘人の宣教師も改裝して舊駐地に歸り、新來の者は微服して入國出來る樣になつたので、此等は一に郎世寧嘆願の結果と見られ、燕京開教略には『郎世寧片言之力。有勝千百之奏疏』と特筆して居る。

扨て清朝の繪畫は時代的に分けて、順治康熙時代・雍正乾隆時代・嘉慶道光時代・咸豐光緒（西太后）時代とするのが普通の樣であるが、郎世寧が畫院に供奉した雍正乾隆の時代は、卽ち清朝學藝の全盛期で、繪畫も亦その爛熟期を現出した時であつた。當時の畫院には、董邦達・張宗蒼・鄒一桂・董誥・張若靄・勵宗萬・錢維城・唐城等の諸大家が供奉し、所謂清朝の畫風は大體この時代に於いて完成せられたと見るべきであらう。而も郎世寧は此等の間に伍して特に異彩を放つて居たかの觀があり、又斯うした優秀なる西洋人畫家の畫院に於ける存在は、清初以來漸く西洋風の影響を蒙りつつあつた其の畫風に、正しい指導者として大きな感化を殘して居るものの樣で、焦秉貞の如きは之を學んで巧みに遠近透視の法を用ひたと謂ふが、其の大作耕織圖の中には子供の玩具までが伊太利風になつて居るとさへ云はれて居る。

當時畫院に供奉した宣教師としては郎世寧の外に、艾啓蒙（IGNATIUS SICKELPARTH 墺太利人）・王致誠（JEAM DENIS ATTIRET 佛蘭西人）・安德義（DAMASCENUS）等が居たが、この中で王致誠は北堂の宣教師等が郎世寧の長い間君寵を蒙つて居るのを見て之と對抗せしむる爲特に本國から呼び寄せた人であつた。

乾隆二十二年（西紀一七五七年）は支那式に計算して、郎世寧七十歳の高齡に達し、古稀慶壽の年であつた。哈薩克貢馬圖はこの年の作品であるが、皇帝は之を見て『寫眞無過其右者』と嘆賞せられたと謂ふ。古稀祝賀の當日には早朝圓明園に候して賜品を拜領し之を輜に載せて輿丁八人に捧げしめ、勅使之に隨ひ彼はその傍に陪して西直門を入り、宣武門内の南堂に到つて賀儀を行つたものの樣で、後に乾隆四十二年に行はれた艾啓蒙の古稀祝賀も之に據つたと云ふが、竹葉亭雜記に南堂に郎世寧筆の大壁畫二枚があつた事を較せて居るのも、斯うした緣故に因るものかと思はれる。

有名な平定準噶爾圖十六枚を、王致誠・艾啓蒙・安德義等と四人で繪いたのは乾隆三十年で、七十七歳の時であつたが、これは歐洲に送つて試みに銅板を造る爲めに先づその四枚だけが繪かれたものの樣である。

郎世寧の作品としては石渠寶笈に收められたものだけでも五十點を超えて居る。眞蹟としては民間に散在して居る物を時々見受けるが、昔文華殿には白鷹圖と薔薇圖と西洋古武士圖とが見られたし、現在故宮には坤寧門の東板房に彼の最も得意だつた馬を描いた十駿圖の大幅物が掲げてあつて、東の五幅は艾啓蒙の手に成つて居るが、西の五幅には海西臣郎世寧の名が見えて居る。また武英殿の凝道殿には馬と共に彼の得意とした犬の繪が十枚ばかり陳列してあるが、かの浴德堂に掲げられて居る香妃の像と稱せられる有名な油繪は、惜しい事には數年前新しい物と替へられてしまつたが、舊畫は郎世寧の作と傳へられて居たけれども、之は民國初年に故闓鐸氏が決定したもので別に根據のあつた譯では無かつたと故人から聞かされた事があり、之は曾て文華殿に西洋古武士圖として陳列された物と同一の繪の樣である。

然し私は郎世寧の事蹟として第一に擧ぐべきものは、圓明園離宮の西洋建築が彼の手に依つて出來た事であると思ふ。傳へられる所によると乾隆十二年のある一日、皇帝が歐洲の風景畫を見て其の噴水に興味を感じ郎世寧を召して之が說明を聽かれた後、在京の宣教師中に斯うした噴水工事の出來る者は無いかと尋ねられたので、彼は一應退いて之を他の宣教師等に諮り遂に其の技術者として佛人ベノア（MICHEL BENOIT 蔣友仁）を推薦した。茲に於いて、皇帝は郎世寧に命じて此の建築を設計監督せしめ、蔣友仁は專ら噴水を擔任して其の秋に第一噴水の工程完成を見、更に引續いて他の建築を行つたものであつたと云ふ。此等の西洋建築は長春園の北部一郭に相並んで居た諧奇趣・方外觀・海晏堂・遠音觀等で、ヴェルサイユの宮殿を模したと云ふ洋式大建築に大噴水を配した壯觀は曾て乾隆末年に來た英使マカートニーを始め、泰西の人々を驚かしめて居たが惜しい哉、咸豐十年（西紀一八六〇年）の秋、英軍の手に燒き拂はれ僅かに其の柱礎を殘して居るのみである。

郎世寧の死去は、其の墓碑に據ると乾隆三十一年六月十日（西紀一七六六年七月十六日）となつて居るから、東洋式に計算すると、享年七十九歳である。阜成門外柵欄兒のマテオ・リッチ等の墓地に埋葬し葬儀料として銀三百兩を下賜せられて居る。墓は義和團事變に毀されてしまひ、其の墓碑も長い間行方を失して居たが、宣統三年九月末、長辛店で發見せられたので今、墓前大堂の西壁に嵌入せられて保存せられて居る。（筆者は北京市公署觀光科專員）

鬼市

島中三槐

北京の所々に見る小市は、細民の日用品を取揃へるデパートである。いはゆる小市は時間的に分けて三種ある。早市（曉市）は夜中の三、四時から夜明迄。晩市は午後の三、四時から日暮迄。夜市は日暮から十二時、一時迄。右のうち早市は夜明前のことで、出所の怪しい品物が多く、又よく珍奇な物が出るので「鬼市」とも云ふのである。

この鬼市は北京らしい一面の性格を持つてゐると思ふ。鬼市に南と北の兩所あり、南市は崇文門外東大市、北市は後海の西北角醇王府西牆外什刹海寺前（段家胡同）に開く。北市は昔德勝門外橋東に開いたが民國二十一年以來城門を早く開けられぬため場所を換へたのださうである。南市と北市の內容は大差なし、南市が稍〻整つてゐてよく找頭（鬼市用語・儲け物）が出る位のものだ。それで打小鼓（ボロ買）小攤的（露天商）がよく出かけて行く。

但し南市は近年不祥事件の發生を防ぐ爲時間を繰下げられた。元來鬼市の妙は夜闇に探るので夜が明けたら面白くない。

鬼市の構成はどうなつてゐるかと云ふと、附近の古物屋若干と常設攤が主體で、その他は「賣出」と「買進」の大部分。賣出は露店を設けて持合せの物を賣るのもあり、一種類の物だけ賣るのもある。例へば鐵器、電氣材料など。又粗末な手工品、帳面、鉛筆、靴下など。但し小市の面白さは掘出物にある。打小鼓は晝間買集めて朝早く此處に來て賣るので、時々珍品が出る。古本書畫骨董など。買手は市中の骨董屋か晝間の露天商人だが、然らばどうして秀氣（鬼市用語・安く買へて儲かりさうな時秀氣ありと云ふ。此反對を打眼と云ふ）をみつけるか？　それには打小鼓のことを話さねばならぬ。

打小鼓のことを「打鼓的」と通稱してゐるけれども、之に硬軟の別がある。但しこれは例の叩いて廻る小鼓は同じもので商賣の性質から分けたもの。打硬鼓は專ら骨董類金、銀細工、貴重品類を買ふ、打軟鼓は普通のボロ買である。打硬鼓は街を歩く時。小鼓を叩きながら「潮銀子嘍―首飾來買嘍―王石寶石來買」とふれて歩く。人が呼ぶと「喝―咱有錢唵―首飾來買」と云ふ、何故さう云ふのか分らぬ。彼等はどこかの胡同に零落れた舊家があると、よく知つてゐて忘れない。彼等仲間の集合所を「攢兒」と云つておほかた茶館に集る。目星しいものがみつかつても一人で買ひ難い時はうまくしめし合せて買ふ。之を「合手」と云つて無暗に同業者に知れ渡らぬやうにする。賣る方では値打の分らぬ物を高く賣らうと思ふ時、打鼓的にはあまり通ぜぬ內證話をしたり嘘半分の事を云つてそそのかす、さうしてわざと惜しむ振をして高い値段をふいて行つてしまふ。

上手な賣手に遭ふと打鼓的もこれはものにならぬと思ひ乍ら、キズがあるとか何とか云ふ。どうも手うちにならぬ時は打鼓的は攢兒に歸つて次第を話し誰に委すかを打合せる。これを「操上拉」と云ふ。さうして賣手の氣持を切崩すやうに、例へば何處の家の物は僞物で値打がないとか、わざと惑はしておいて他の打鼓的が行つて買ふのである。これを「反俏」と云ふ。打鼓的仲間で「公道」と稱する商賣の秘訣は「細批評、慢給價、快回頭」よくみて、急がず、さつとひく、のである。

（筆者は華北交通營業局員）



花の味覚

黄子明

花の香を鼻で悦ぶことは、古今東西何處の國の人にも變りはないが、花の香を味覺で堪能することは、蓋し中國人の有つ一種特異な感觸であらう。

從つて香といふ文字の釋義にもまたその用法にも、自ら日本とは異つた點がある。花の香をかいで恍惚たる氣持ちになるやうな事物の形容に、この香の字をひろく使ふ。譬へば「いい氣持でぐつすり寢る」といふやうな睡眠の快感を表はすに支那語では「睡得很香」といふし、また夏の夕の湯あがりに冷したビールでもキユーツと一杯あふるその味の旨さを「喝得香極了」などといふ。

一個十錢かそこいらの安シヤボンを買ふにしても、大抵の中國人は先づその石鹼を鼻先きに持つていつて嗅ぐ。いくら質の優良な石鹼であつても、よほど石鹼に關する知識をもつてゐる人でない限り、その香がよくなければ買はない。

といつたあんばいに中國人は實に香を好く。で、花にしても、朝顔よりか蓮の花に愛好が惹かれ、夕暮に鉢植の蓮の花がしぼむとき、一摘みのお茶の葉をガーゼのやうなものに包んで花の中に入れ、翌晨花が開くのを俟ち、それを取出していれて飲む。蓮蕊茶といつて風雅人はこよなく尙ぶが、その蓮の移香の風味はなんともいへない。

ここに中國人が如何に巧みに香のある花を日常飲食の用にとり入れるかに就き、その普通なものの幾種かを擧げて簡單にお話申上げよう。

玫瑰（メイクエ）　これは薔薇科の日本でいふハマナスの花で、白と紅の二種あるが、餡にこの花を入れた玫瑰餠、玫瑰糖、玫瑰糕などのお菓子がある、また上等の燒酒にこの花を浸溶した玫瑰露といふ佳酒があり、また華北人の殊に好む香片といふお茶のうちにもこの花を燻入したのがある。

お茶を一摘み蓋碗兒——日本の茶わん蒸しに使ふやうな蓋のついてゐるお茶碗——に入れ、その中にこの玫瑰の花一朶を落して湯をそそぎ、幾分かの後それを啜る。いいとこの年寄などはかうしてお茶を樂しむ。

桂花（クエホワ）　木犀の花で、これを餡に入れて拵へた仲秋の桂花月餠また糯米の粉にこの花と砂糖を入れた桂花年糕といふ餠がある。これを蒸して喰べると、喩へやうもない香味。

また正月十五日の元宵節に喰べる元宵の餠にもこの花を入れ、寒い冬の夜の北京の胡同を賣り歩く元宵屋がクエホワーユエンシヤオ（桂花元宵）と調子のいい節をつけて呼ぶ。

夏の甜いお料理として誰方も舌鼓をうつ杏仁豆腐にも、この桂花をぱらぱらと藥味のやうに落す。杏仁の香と程よく組み合つて、一掬覺えず讃嘆の聲をあげる。

菊花（チユウホワ）　菊の花が咲き競ひ出すと北京のどのお料理屋でも菊花鍋子が始まつて秋の食慾をむしやうに惹きつける。程よく味をつけた澄し汁を盛つた銅の鍋を、甚だ簡單だが一種特別の爐の上に乘せる。爐の中にはアルコールが這入つてゐる。それにマツチをするとぼつと音をたてて實に綺麗な五彩の炎をあげる。沸ぎるのを俟つて極く薄い切身にした鷄肉や魚肉と一緖に白菊の花瓣を入れ、ちよつと蓋をしてから喰べる。淡雅な美味でしやれた秋の料理である。

黄白の菊の花を蔭干にした貢菊といふものがある。お茶に使ふもので、前に述べた蓋碗兒にお茶と一緒にこの花を入れて湯をそそぎ、蓋をしたまま來客などに出す。蓋をとると菊花一輪實に見事に開き浮いて、その品雅な香と形は何んともいへない。

この菊花茶は、嘗て滿鐵が、日本各地の博覽會の滿鐵特設館附設の滿洲茶寮で、日本の雅人に心から悦ばれたことがある。

藤蘿（トンロウ）　枯れた老柏の樹にからませた北京の中央公園の藤は、また棚づくりの藤とは異つた風情ゆたかなものだが、その藤の花の咲く頃、中央公園の樹間茶寮の店先きに「鮮花藤蘿餠」といふ文字が書き出されて、杖をひく花見の客が、ちやうど龜井戸の藤見の客が名物のクズ餠をめでるやうにこの藤蘿餠を喰べる。藤の花を餡に入れたお菓子で、紫の色もあせぬ花が餠の中から顏を出してゐる。その味ひからにじみ出る風致と情緒とは、龜井戸の藤見のクズ餠のやうな花とそぐはないものとは違ふ。

（筆者は在北京中國人）

五臺を憶ふ

小松健三郎

法燈をかかげて一千九百年、幾多興亡の歴史を祕め有爲轉變の世相を凝視して來た五臺山はいま初夏の息吹きに再び蘇つた。

回教徒にとつてメツカが唯一の極樂であり聖地であるならば、五臺山は幾百萬の善男善女を擁する喇嘛教と、中國佛敎徒にとつての極樂であり聖地である。一生の裡に一度でいい、靈場の片鱗すら望み得るならば生命を捧げて悔ゆるなき法悦を感ずるであらう。中國の西北角から遍歷する信徒の群は蓋し崇高であり、姿は美はしき一幅の名畫でもある。富有の身なら馬數十頭を携へ、燃ゆる信仰者なら煉瓦を携へて故郷を後にする。馬は旅行く費用であり食糧であり交換の商品でもある。年年五臺山で盛大な家畜市場が催されるのはこのためで濟南、青島を中心として馬喰は三々伍々集ひ數十萬の取引が行はれる。山東が馬で有名なのは、主としてこの地の買付けに依るものである。さて煉瓦は伊達ではない。信仰者は三歩（人影の長さに當る）歩るいては地に置き三度叩頭しては遥けき聖地に高らかな合掌を捧げて三歩あるきを繰り返し續けて行く。この動作は一見單調ではあるが黃塵萬丈の砂丘、赤い太陽が西の果を染める頃、青い月光の下では心打たれる景なのである。そして四國の遍路が恰も一般に歡迎されるやうに蒙古包に住む人々は敬虔なる態度で喜捨するのが不文律なのである。

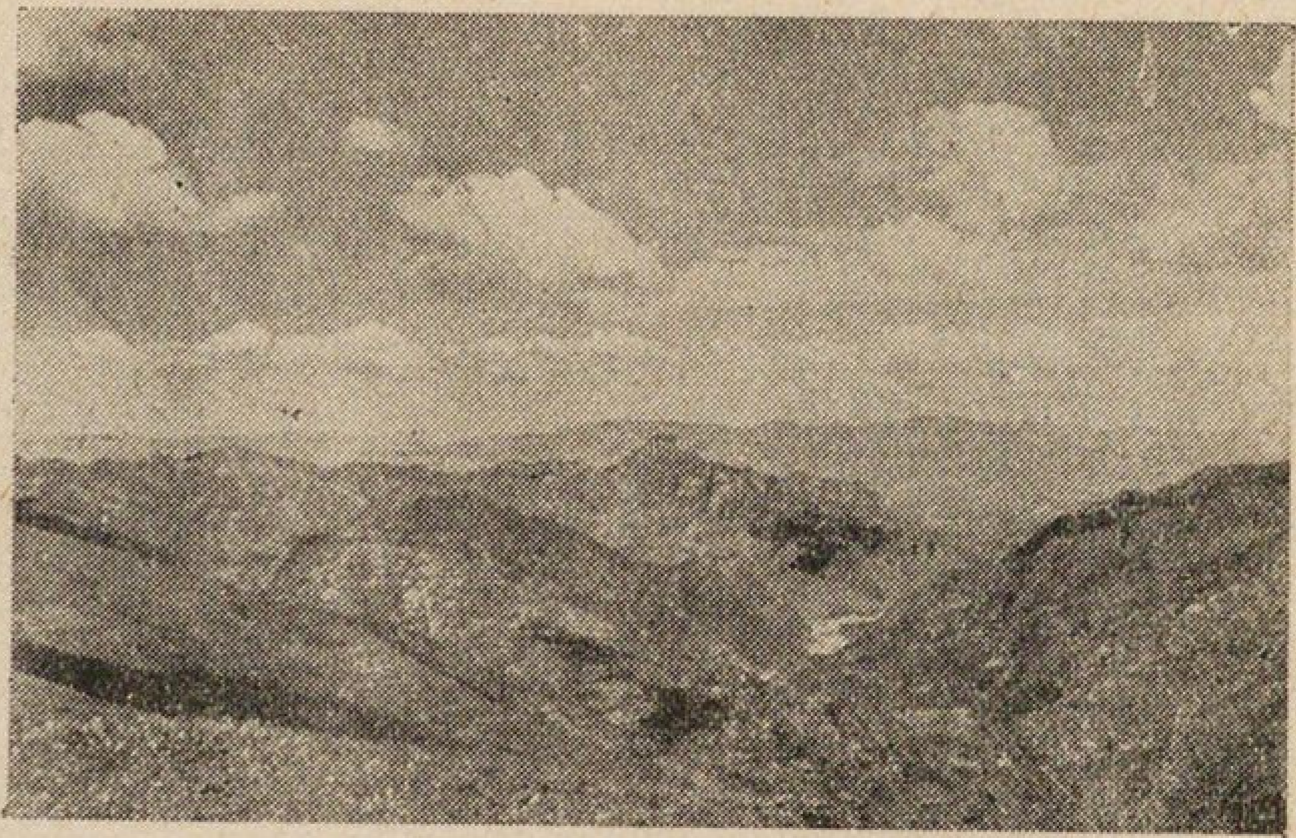
纏衣は褪せ綻び破れるとも、熱い信仰心と一碗に盛られた愛情に縋り、この絶えざる苦業は續けられて行くのである——恰も地の果まで——恐らく青海から聖地までは三年乃至四年を閲すると言はれる。この長い間の苦業は必ず眼病を患ひ盲(めし)ひるが、肉體的な苦痛よりも精神的な法悦が餘りにも大きいのだ。現に五臺では幾千となく盲者が生活してゐるが頰には寧ろ神々しい微笑が漂つてゐると言ふ。

「われらが聖城を守れ」てふ聲は一千年來の澎湃たる信徒の叫びであり念願でもあつた。五臺山はこの連續の記録であり精神的な道場であり血で幾度か塗られた健闘史でもあつた。殊に今次事變は劃期的な一頁でもあつた。そして始めて仰ぐ皇軍の溫情と新民會の慈愛には心から泣いた。暴力の前には屈せない彼等もこの皇軍と新民會の渾然たる美はしい姿には唯打たれた。恐らくは生れて最初の信頼であらう。

事變當時に五臺は共產八路軍の本據であつた。天然と人工を加へたこの地は恐らく要害堅固であつたであらう。しかし彼等は駐屯の最中「宗教は阿片である」てふ觀念をもち殊に朱德は寺の燒打ちを命じた。赤い焔が寺に放たれんとした時、一活佛は敢然として言つた。「寺院を燒くのは勝手ですが四億の民衆の生活に滲みこんだ佛敎心は恐らく取り除き得ないでせう。僅かな寺院と多くの人々、そして私共は八路軍が五臺を燒き拂ふといふことに就いて永遠に忘れないでせう」この事實は今尚人口に膾炙されてゐるが、共產軍の肺腑を抉るに充分だつた。如何に非良心的な野獸でもこの眞理の前には屈せざるを得なかつたであらう。

事變當時である。五臺に屯してゐた二十萬の山西軍は住民から蛇蝎視された。然も皇軍の進擊の前に防ぐ術なく追はれて行つた。住民は皇軍來るの聲

五臺連峯（望海峯からの眺望）



に安堵と仄かな希望を持つた。丁度山西軍が忻口鎭の防備に狂奔してゐた頃である。逃げがけの駄賃に山西でも有富と言はれる鎭海寺（喇嘛寺）に押し入り章伽活佛を人質にし、あはよくば將來金錢に換へんとした。脅しの青龍刀がキラめいた時、活佛は靜かに言つた。「拉致は何時でも出來るでせう。五日間、考慮の餘地を與へて呉れませんか」一應尤もな話であり掌中の玉と信ずる彼等は言に從つた。活佛の心では五日間の裡には破竹の勢で皇軍が進撃するであらう。皇軍の庇護に更生の道が開かれるであらう。凡百の住民を呻吟せしめた彼等に、神罰が下らぬ筈はない。五日間のうちに――さう固く信じて疑はなかつた。日一日とたつて終に皇軍は姿を現はさなかつた。迎への自動車が來た時に彼は涙して皇軍の武運を祈り續けた。風のたよりに彼は今重慶で呻吟の一日を送り、不遇を歎じてゐるといふ。然しこの信念この姿は矢張り尊きものであらねばならぬ。

嘗て八路軍は飽くなき猛威の下に聖城を蹂躙せんとした。一千九百年間の法燈が搖ぎ、將に消えなんとする慘狀であつた。物資の豐富さと天險は、蓋し彼等の弗箱であつたであらう。危き哉!! だが敢然蹶起した皇軍は聖戰の下救出に成功した。恩威と正義の前に民草は靡き心から信頼した。だが執拗な共產匪は尙昨年出沒しつゝあつた。寧日なき討伐、閑日なき工作は信徒の爲であり民草の爲でもあつた。金剛倉村長李玉懷（三七）の如き男泣きに泣き乍ら恩顧に酬いるため自ら皇軍の案內役を務めた。敵に發見さるれば恐らく漢奸の汚名の下に刑場の露と消えるであらう。だが固い決心は搖ぐべくもなかつた。昨年七月十六日八路第四團偵察隊のため發見拉致され、三十七を一期として儚く消えた。だが、彼が懷中にしてゐた遺書だけは村民に渡された。悲壯なそして最後まで皇軍に寄せた信頼の姿であつた。遺書の內容は――

過日大日本軍司令官（註・原文にはかう書いてある）と會談した。本日より皇軍が來ます。村民の男子は勿論婦女まで歡迎して下さい。唯一の味方で決して亂暴はありません。一人でも逃げないやうに、そして鷄卵、その他出來るだけ御馳走して下さい。皇軍の助けのみが平和な村を完成させるのですから。

× ×

五臺の風物の佳景は蓋し遊子の旅情を徒らに慰めるだけではない。俗塵が雲散霧消して恍惚の境の裡に清淨無垢な童心に蘇る。煩惱の絆が切れて『色卽是空』の境地に達し得るのだ。千年の歷史の一齣毎に幾多名僧を輩出したことは蓋し偶然のことではない。最後にさうした事實を端的に綴つてこの稿を閉ぢよう。

前述の如く事變當時共產軍は五臺に駐屯した。心なき彼等兵士にとつて住民の婦人は唯一の現物であり慰安であつた。如何に住民が顰蹙しようとも暴力の前には無力であつた。

臺懷鎭の中腹に、黛螺頂なる寺がある。歷史的に由緖を祕めたところであるが、この寺院に共產八路の一大尉が屢〻遊びに來た。最初は僧侶に無心を言つてゐたが、次等に無心から信仰への道に同化されて行つた。某日だが――突然僧侶達に筆と墨を貸して頂きたいと申し出た。いぶかる僧侶を尻目にして、やがて壁に墨痕鮮かな詩を綴つた。大要は、

「十四年來憧憬の五臺に念願を達して今ぞ訪れた。嘗ては名利に憧れを寄せた自分ではあるが、浮世の名利を得て何になるか、始めて知る、佛道を。佛に仕へることこそ已が生命だ。今日より劍を捨てて軍を去らん」

美はしい詩である。カラリと筆を捨てた秋、彼は一介の善良な民衆に歸つた。そして殺戮、放火、暴行の醜き共匪の群に別れを告げて永遠に飄然と去つたのだつた。

名前も知れぬ。況して經歷をさぐり得べくもない一大尉であるが、今なほ村民の語り草である。壁に書かれた詩は本年發見された。聞く人々皆深い感銘に打たれたのだつた。

（筆者は新民會囑託）

可園雜記

加藤新吉

蝎(さそり)と蚰蜒(パイリン)とは北京の夏を不愉快にする小惡魔である。

蝎は蛇とともに古來嫌はれものの代表にされてゐる。大きいのは二寸位、鋏ふとかさかさと一種の音がする。猛毒であるが眼に見える蟲だから注意さへして居れば滅多に刺されることはない。支那家屋の內部が概ね白い紙で貼り潰してあるのは、かうした蟲類の出入を防ぎ、その發見を容易ならしめる目的もあるのであらう。

去年の夏隣人の奧さんが足先を刺された。薄くらがりを步いてゐて蝎の頭を踏んだ。蝎は踏まれたとたんに尾を擧げて刺した。急に燒くやうな痛みを覺えたといふのである。處置について の相談を受けたが、別段知識も經驗もないので、買置きの鳩居堂の蛇頂石をあげた。それを貼りつけたら二三時間で痛みが止んださうである。勿論生命には別狀はない。命をとる蝎は節の數が違ふといひ北支には居ないといふ。

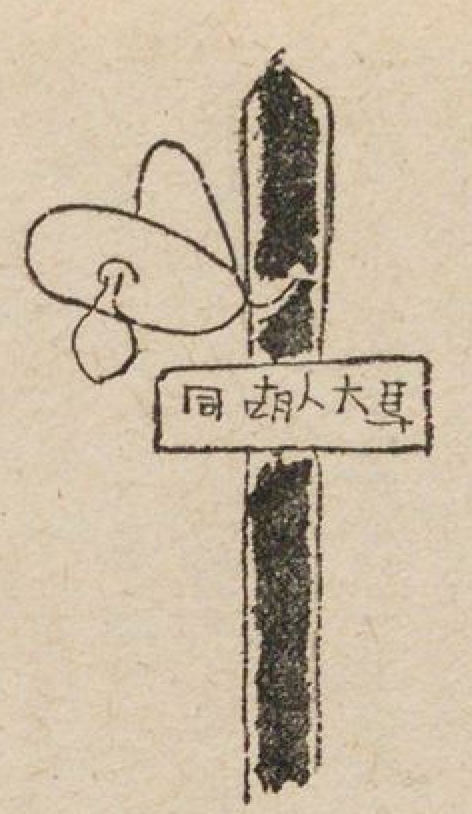
蚰蜒は滿洲の邦人間ではアカシヤムシと俗稱して居る。胡藤の葉が繁る頃に出るからさういふのであらう。胡藤と直接關係があるかどうか私は知らない。或は家鳩の糞にわくといひ、北京には家鳩が多いからこの蟲も多いといふ。醫者はそれを俗說だといつた。私も愛すべき鳩と惡むべき蟲との親族關係を信じたくない。笛をつけた鳩の群が空に舞つて嫋々たる哀音を漂はすのは北京の風情の一つであるが、それを聞くたびに氣狂になりさうな痒さを思ひ出すなど感心した話ではない。

私は滿洲でも二三度この蟲にやられた、二十年近く居た間にである。ところが、北京に來てから每夏ひどくやられる。私だけが蟲に好かれてゐる譯ではない。六月になると誰もが話をしながら、仕事をしながら、つい首筋や手足をかき始めるのである。ひどいのは丹毒かと思ふ程腫れあがり、關節にぐりぐりが出來、熱を出したり、睡眠不足になつたりする。刺されたあとに水泡ができ、それが潰れると何時までも汁が出る。石炭酸亞鉛化軟膏(カルボール・チンク・リニメント)をそこらぢゆうに塗つた人、繃帶をした人、靴がはけなくてスリツパをはいてゐる人などが殖える。全く不愉快である。癇癪が起りやすくなる。昨日猫が私に近づかうとしたら「玉ちゃん、今日はパイリンさまだから近よつちや駄目よ」と家人が之を制した。たたきかねまじき權幕だつたのかも知れない。

蚰蜒の始末のわるさは眼に見えないことである。見えない譯ではない、たまに摑まへてみると蚤にすき透つた薄綠の羽をつけたやうな蟲であるが、痒いと感じて押へても決して居ない。支那人はそれを蟲の怜悧のせゐにして同音の百怜の字を當てたりする。刺されて時が經つて痒くなるのであらう。その時すぐ蛇頂石を貼れば大いに被害を輕減する。これは私の經驗で、敢て鳩居堂の提灯をもつ譯ではない。

さる人實例を數へて、氣の強い者ほど蚰蜒に弱いといふ說を立てた。私の周圍を見まはした結果もさうらしく見える。醫者は、毒が酸性だから酸性體質の人ほどまけるといふ。兩說を綜合すると、酸性體質の人ほど氣が強いといふ結論が出さうである。さうすると人物考査の場合、酸性かアルカリ性かを調べる必要がありさうである。結婚の場合、酸性の亭主にはアルカリ性の女房などといふ組合せも考へられさうである。

北支暢談



扶輪學校

華北交通會社は鐵道と自動車と水運との單なる經營會社ではなく、併せて大陸の土地と住民とを開拓し啓發すべき使命を持つてゐる。同社が鐵道沿線各地に巨費を投じて經營してゐる扶輪學校の如きはこの使命に基く理想の現れに外ならない。この扶輪學校といふのは中國人社員の子弟を收容し彼等を華北政務委員會の教育方針並びに蒙古聯合自治政府の教育方針に準據して、國民普通教育を施すと同時に將來の鐵道マンとしての基礎教育を施さうといふ學校であつて、程度は、日本の初等學校とほゞ同じである。扶輪の「扶」は扶ける、「輪」は車輪の意味で鐵道を扶けレールを護る、つまり華北蒙疆に於ける產業の開發に物資の輸送に、文化の傳播に、動脈的役割を果しつゝある鐵道を護るといふ意味で、同社の八萬に上る中國人社員の子弟に對して興亞精神を吹き込み、新秩序建設の次の戰士を育て上げようといふ目的を持つた學校である。しかし之は事變後に於ける更生した扶輪學校の姿であつて、事變前の扶輪學校は全く之とは異り、歪められた抗日思想の溫床的存在として活動を續けてゐたのである。

今次事變の發生は種々の遠因や近因はあるが、要するに、徹底せる抗日敎育の所產であるといつても過言ではない。從つて東亞の新事態に於いて要求せられる教育の地位は從來の誤れる抗日教育を根本的に是正し、中國民衆に純正なる思想を注入して、日本が新東亞の建設に邁進する眞意を理解せしめねばならないのである。

現在の開校數は三十校でその生徒數は約九千人、初級四年、高級二年の二部制で初級の入學適齡は八歲から十二歲、學科は普通公民教育の外に交通の實務訓練をも行つてゐる。各學校には大抵華北交通社員である日本人教員が一名乃至四、五名配屬されてゐて日本語を敎へ、實務訓練には現業の社員が當つてゐる。近く扶輪中學も開設の豫定である。扶輪學校の開設されるところ民心の安定著しいものがあり、親日教育を受けつゝある彼等小國民の將來には大きな期待がかけられてゐる。

乞巧（チアオチイエ）

アカシヤの繁みが綠に匂ひ、燕と鳩の群が斜交ひにとび交ふ——夏の季節になると北京の辻々には天河配、新天河配など七夕祭をあてこんだ芝居のビラが貼り出される。七夕が牽牛と織女の祭りであることは說明するまでもないが、この傳說は東洋が有する最も優れた神話の一つだ。この日になると北京では色々の催し物がある。

中でも乞巧、又は去節といはれる遊びは、なかなかの雅味を持つてゐる。娘たちは茶碗に淸水を盛つて日向に置き、箒の枝の短く折つたのを筏にして針を載せ、水に浮かべ、底に映つた影を見る。その影の散つて花の如きもの、動いて雲の如きもの、細くて絹の如きもの、粗にして椎の如きもの、かうした色々の形で、自分の縫仕事の上手下手を占ふ。唐の時代、官女たちは七夕の日に九孔の針を太陽に翳し、これに五色の絲を通し、それが手際よく通るか通らぬかで、手並の巧拙をトしたといはれるが、今日、針を茶碗に浮かすのもこの古習が轉じたものであらう。

しかしこのやうに情緒にとんだ手すさびが近來だんだんとすたれつゝある。民衆の生活の上に皮膚の様に蔽はれて來た傳統、これらの風習が時勢の波にはかなく消えて行くほど心あるものにとつて寂しいものはなからう。

赤色ルート

赤色ルートとはコミンテルンの世界革命の思想とその諸手段とを世界に傳播するための特殊徑路であるが、ここでは東亞に向つて開かれてゐるこのルートをいふ。

この赤色ルートは大別して三つの幹線に分けることが出來る。

その一つは、シベリアから極東に出て日本海に至るルートであつて、かつては滿洲を南下して遼東半島にその出口を求めたものであるが昭和十年北滿鐵道が完全に滿洲國に接收せられた時を以て遮斷せられた。

その二は、シベリアから外蒙古に入り內蒙古を經て張家口から北京、天津地方に出るもので、外蒙赤化の成功後このルートは强化されつつあつたが、これも亦支那事變による蒙疆政治ブロツク出現の結果遮斷せられた。

その三は、ソ聯中央アジアより支那西北角地區を貫通するもので、まづ新疆省に入り、迪化、哈密を經て、甘肅省の肅州、甘州を結び蘭州に至るルートであつて、これは蘭州を據點として更に或は陝西省の延安、西安に延びて隴海鐵道に連り、或は四川、湖南、湖北より福建に迄觸手を伸ばさんとするものである。隴海鐵道はかつての海蘭鐵道（海州——蘭州）計畫の具體化したもので、海蘭鐵道計畫はベルギー資本を表面に立てた帝政ロシアの計畫であり、蘭州以西は所謂新疆鐵道としてロシアの計畫したものである。この中央アジアから黃海に出でんとするロシアの遠大な計畫は、ソ聯によつて着々實現せられ、一九三〇年開通したトルクシブ鐵道は新疆省境に沿うて走り、このルートを著しくモスコーに接近せしめたばかりでなく、新疆省の赤化に役立つた。支那事變後は、徐州陷落及びその後に於ける皇軍の隴海線制扼によつて、この赤色ルートの海に出る望みは全く斷ち切られたが、しかもなほソ聯の最も重要なる連絡ルートである事は言ふ迄もない。隴海鐵道の東半部即ち連雲開封間五百キロは現在華北交通會社の手によつて運營されてゐるが、この鐵道の持つ役割はこの意味からも今後益〻重要性を加へるであらう。

紅槍會

紅槍會は、支那の祕密結社の雄として北支に君臨する白蓮教の一派であつて、土匪に對する自衞から大正八、九年頃山東、河南、江蘇、安徽北部に現はれたものである。その後次第に勢力を擴大し、後には軍隊の誅求に對しても反對するやうになり現在では河南を中心に山東、江蘇北部、直隷南部等に擴がり、その數約百萬に達すると云はれてゐる。嘗つては誤れる對日觀念に基いて妄動したのであるが、事變以來軍及び新政府の宣撫關係機關の努力によつて彼等は飜然と覺醒し、連莊會——各部落を連ねる自衞機關——に合流蠢動する敗殘兵や小匪賊共に對抗してゐる。

彼等の特徴は拳法を習ふのと、行を修して、彈丸を避け、刀でも切れない術を會得することで、赤い紐のついた槍と赤い腹がけと、珍妙な呪文に不可思議な慓悍さを發揮すると云はれる。

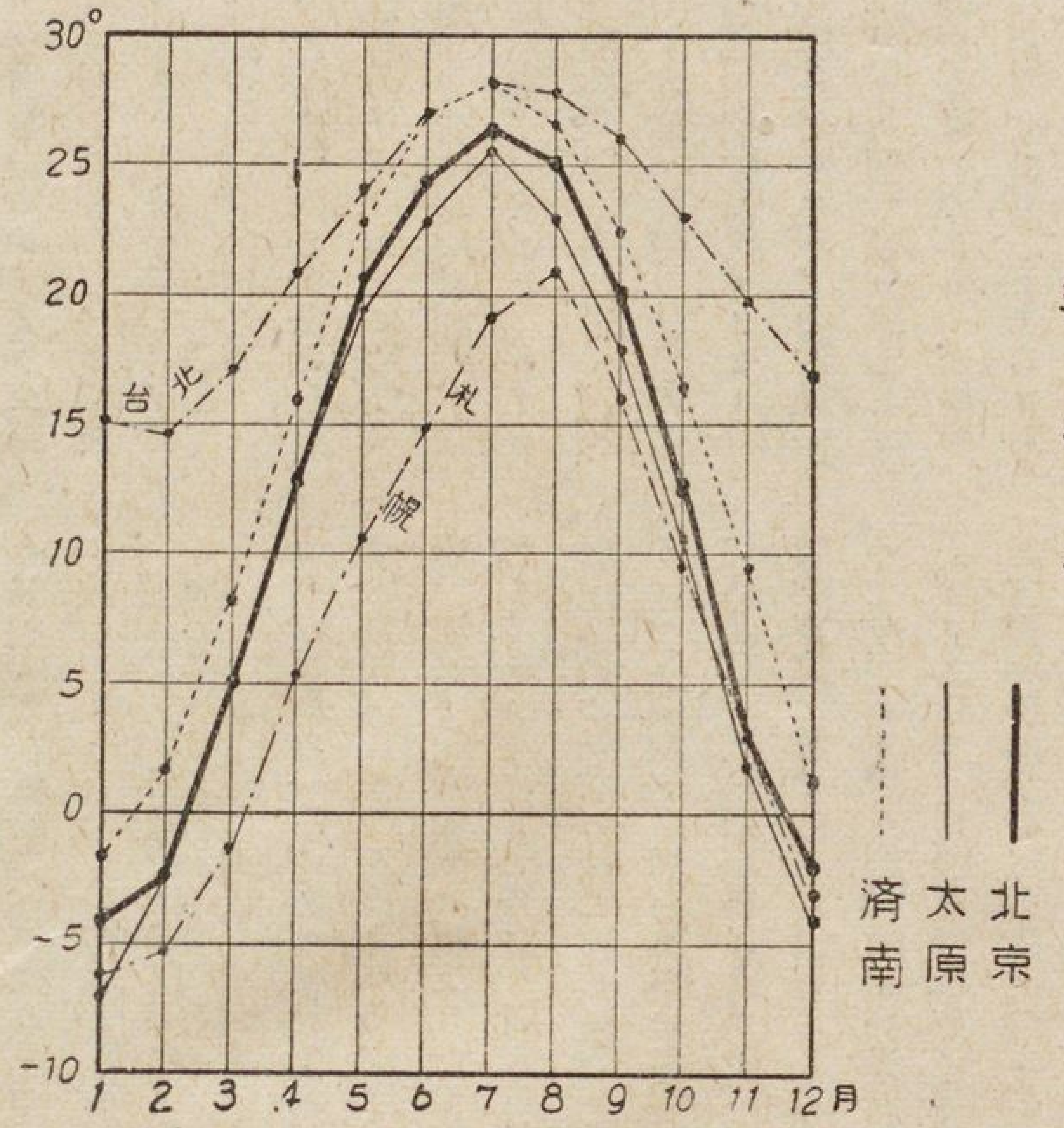
租界

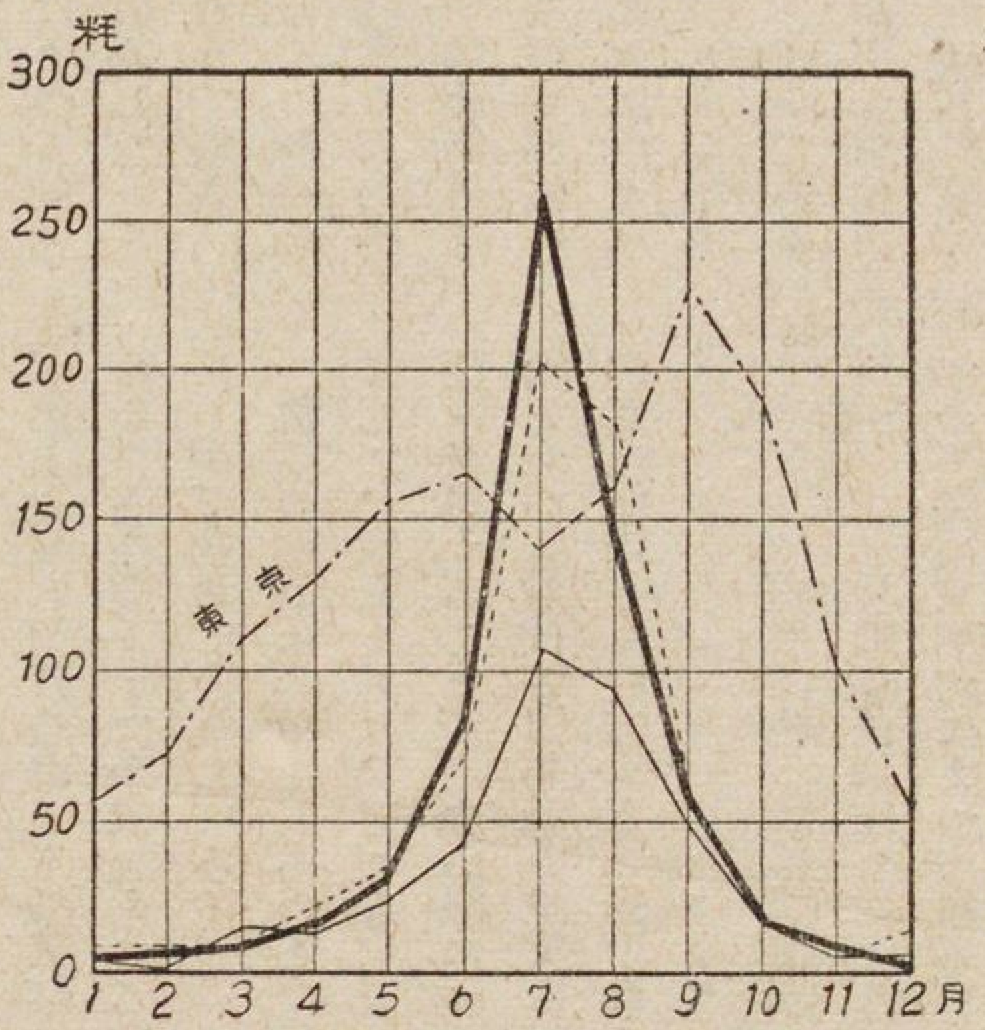
支那に於ける外國租界は阿片戰爭後結ばれた一八四二年の英支南京條約によつて初めて外國人の居住貿易權と同時に確立されたもので、以來、英國を始め諸列國は競つて租界の設定に努め、この勢は日清戰役後のいはゆる「利權獲得の戰」によつて一層刺戟され、第一次世界大戰直前までには實に租界設定國は八ケ國、各地の租界數二十八ケ所といふ數に達した。その後この租界の發達はつひに外國の政治的權益と化し、支那の國家主權は日に侵害の度を深められ、租界内の支那人は不平等の待遇を受くるに至つた。また租界の治外法權を利用して租界は軍界、政界の亡命者の隱れ場所となり、內亂、陰謀の中心ともなり一方では租界内における外國產業の發達は支那の土着產業を脅威したのである。第一次世界大戰後、世界的民族主義風潮と相俟つて、支那は俄かに不平等條約撤廢運動を起し、租界回收運動を起したのであるが、着々と成功を收め今次事變直前に至るまでに回收したものは九租界に及んだ。

租界が如何に中國の眞正な發達を阻害してゐるかは、今次事變當初、敵性を發揮して中國新政府ならびに皇軍に對して種々の妨害を加へた英佛租界の態度を見ても領けよう。現在列國の有する租界は日本を除き英國七（天津、鎭江、蕪湖、蘇州、杭州、厦門、廣州沙面）佛國四（天津、上海、漢口、廣州沙面）伊太利一（天津）である。

北支の氣候

北支・蒙疆の統計 13





北支の冬は、バイカル湖から外蒙にかけて發達する極地氣塊から冷くて乾いた北西の風が吹きつけるので平均氣溫は最も寒い一月には氷點下數度を上下し、略〻東北日本に似てゐて河海も凍結を來す。併し極地氣塊の消長につれ三寒四溫型の猫の目の樣な氣溫の變化は甚だしい。三月に入れば河海の氷も消え去り四月の初め柳の芽が吹き出す頃には黄塵天を掩ふことも屢〻だ。

そして溫度が急に昇るので樹々は一度に芽をふき、百花は先を競うて咲きだし大陸の春は慌しく過ぎる。

夏季の平均氣溫は薩南や琉球に近いが七月中旬は屢〻四十度を上下する。

中支や日本では梅雨と颱風性の雨との二つの降雨期の山を示すけれども北支では梅雨に似た溫帶旋風性の雨と颱風性の雨とは七月を最高とする一連のグラフを示し、その前後三ケ月の雨量は年量の六七割に及ぶ。この夏季の多雨は農作に好都合ではあるが一降りに三百粍前後の豪雨を見ることがあり、廣域の水害を起す反面に、年によつては作物枯死しても尙慈雨來らぬ旱魃もある。

惟ふに未だ沖積されぬ黄土草原土壤の石灰性と開墾の容易さに誘發された原始農耕が、漸く人口の壓力を感ずるやうになると年によつて生ずる旱魃條件を避けて土地利用を集約すべく沖積原に下り秦漢以後の灌漑農業となるや今度は又時あつて遭遇する意想外の暴雨と河流の氾濫が最も大きな關心事となり治水は治世の先決事となつた。爾來政治の興廢と溝渠堤防の改廢とは相並行し水害の頻度は右に應じてゐる。

又氣候の或る週期を持つた變化も指摘せられてゐるし、彼の農耕地域の北限を走る萬里の長城が、其の修築時代毎にコースを異にしてゐる事は歷代植民事情と氣候の變遷を示して面白い。

昭和十六年七月十五日印刷納本
昭和十六年八月一日發行

八月號
（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社 資業局 加藤新吉
發行者 東京市麹町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 大橋松雄
發行所 東京市麹町區三番町一 第一書房
振替東京 六四二三番 一四一五番 電話九段(33) 三一四番 三三四四番

一册定價㊫三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分 金三圓六十錢

廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所 一新社
電話土佐堀九三九

NISSEN

寄生性、瘙痒性 皮膚病に



ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮內に滲透して強力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病薬なり。

【特徴】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。

一、嫌悪すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。

一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

適應

疥癬・頑癬・濕疹一切
白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患

包裝

一〇瓦(瓶入)
二五瓦(〃)
一〇〇瓦(〃)
五〇〇瓦(罐入)
一〇〇〇瓦(〃)

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社 稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

日染

ムナバール

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十六年七月十五日印刷納本 昭和十六年八月一日發行（毎月一回一日發行）第二十七號

北支 定價 三十錢